

平成26年度

栃木県政世論調査

結果の概要

平成26年10月

栃木県

# 目次

---

I	調査の概要	1
II	調査の結果	
1	暮らしの変化について	
(1)	暮らしの変化	2
(1-1)	暮らしが悪くなった理由	3
(2)	暮らしの満足度	4
(3)	今後の暮らしの状況	5
(4)	今後の暮らしで力を入れる点	6
2	県政への要望について	
(1)	県政への要望	7
3	日常生活について	
(1)	芸術・文化活動について	9
(2)	スポーツ活動について	10
(3)	住んでいる地域について	11
(4)	「とちぎの元気な森づくり県民税」について	12
4	これからの時代への対応について	
(1)	現在の社会や今後の社会の変化で関心を持っているもの	13
(2)	「豊かさ」のイメージ	14
(3)	「住みやすさ」のイメージ	15
(4)	これからのとちぎづくりのために必要なこと	16
5	とちぎ自慢について	
(1)	県外の友人に自慢したい栃木県の特産品	17
(2)	県外の友人に自慢したい栃木県の観光や施設	18
6	行財政改革について	
(1)	行財政改革についての考え	19
(2)	評価する行財政改革の取組	20
(3)	今後力を入れるべき行財政改革の取組	21
7	社会貢献活動について	
(1)	社会貢献活動に対する関心	22
(2)	社会貢献活動の参加状況	23

---

(2-1) 社会貢献活動に参加しない理由	24
(3) 社会貢献活動を支援するための行政の取組	25
(4) 社会貢献活動と行政の協力・連携についての考え方	26
<b>8 地域防災について</b>	
(1) 日頃最も不安に思う災害	27
(2) 地震に対する備え	28
(3) 地域の指定避難場所等の認知度	29
(4) 防災訓練の参加状況	30
(5) 自主防災組織の認知度	31
(5-1) 自主防災組織の活動への参加状況	32
(6) 消防団員を増やすための取組	33
<b>9 食の安全・安心について</b>	
(1) 食品の安全性に対する不安	34
(1-1) 食品の安全性について不安に思うもの	35
(2) 食品を購入するときに気を付けること	36
(3) 食の安全に関する知識や情報の取得	37
(4) 食品の安全性の向上	38
<b>10 生涯学習について</b>	
(1) 最近1年間に行った生涯学習の種類	39
(2) 生涯学習を行う機会として増えたほうがよいと思うもの	40
(3) 生涯学習活動を盛んにしていくための行政の取組	41
<b>11 犯罪と治安対策について</b>	
(1) 県内の治安状況	42
(2) 不安を感じる犯罪	43
(2-1) 子どもに対する犯罪に不安を感じる理由	44
(3) 公共空間における防犯カメラの設置について	45
(4) 犯罪の発生や防犯に関する情報で知りたいこと	46
(5) 交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動	47
(6) 高齢者の交通事故防止のために必要な対策	48
(7) 自転車の安全利用を促進するために必要な対策	49
(8) 飲酒運転根絶のために必要な対策	50

# I 調査の概要

## 1 調査目的

この調査は、現在あるいは今後解決すべき課題について、県民の県政に対する意識・要望などを的確に把握し、県政施策の企画・立案及び県政執行上の参考に資することを目的とする。

## 2 調査項目

- (1) 暮らしの変化について\*
- (2) 県政への要望について\*
- (3) 日常生活について
- (4) これからの時代への対応について
- (5) とちぎ自慢について
- (6) 行財政改革について
- (7) 社会貢献活動について
- (8) 地域防災について
- (9) 食の安全・安心について
- (10) 生涯学習について
- (11) 犯罪と治安対策について

(\*印は時系列調査)

## 3 調査設計

- (1) 調査地域 栃木県全域
- (2) 調査対象 満20歳以上の男女個人
- (3) 標本数 2,000
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送法（郵送配布－郵送回収）
- (6) 調査時期 平成26年5月21日～6月13日

## 4 調査機関

株式会社エスピー研

## 5 回収結果

回収数（率） 1,318（65.9%）

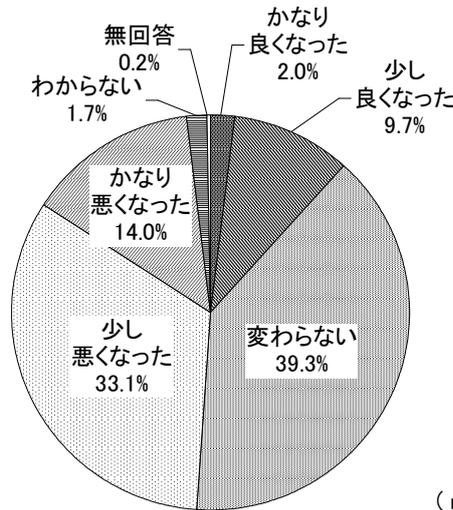
## 6 報告書の見方

- (1) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- (2) 基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。
- (3) 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- (4) 図表・本文では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合がある。
- (5) クロス集計では、分析軸の「無回答」を掲載していないため、分析軸における各項目のnの合計値と全体の数値とが合わない場合がある。
- (6) クロス集計時に、nが小さい数字になる場合は統計的誤差が生じる可能性が高いので注意が必要である。

# 1 暮らしの変化について

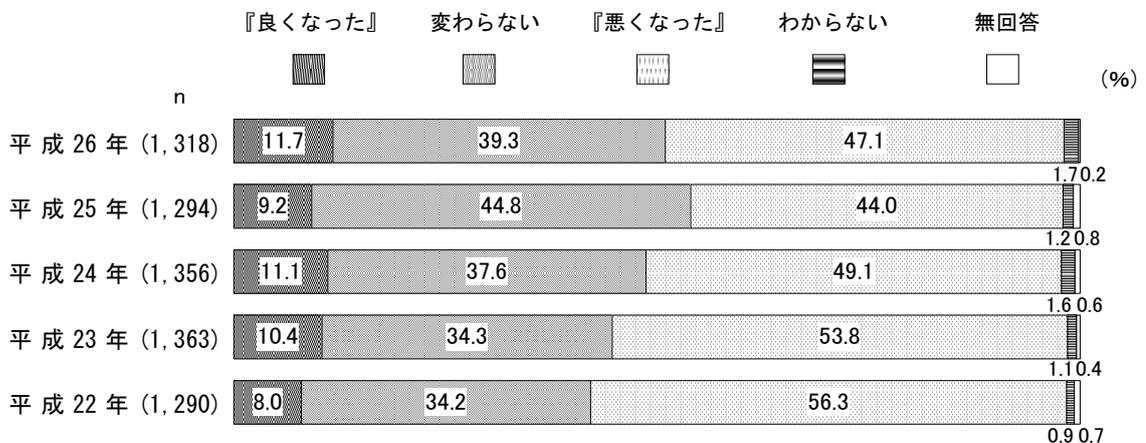
## (1) 暮らしの変化

問1 あなたの暮らしは、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,318]



(n=1,318)

- ・全体で見ると、「かなり良くなった」(2.0%)と「少し良くなった」(9.7%)の2つを合わせた『良くなった』(11.7%)は1割を超えている。一方、「少し悪くなった」(33.1%)と「かなり悪くなった」(14.0%)の2つを合わせた『悪くなった』(47.1%)は5割近くとなっている。
- ・性別で見ると、『悪くなった』では〈男性〉(49.5%)が〈女性〉(45.8%)より3.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『良くなった』では〈男性20歳代〉が22.7%、〈女性20歳代〉が20.4%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈男性50歳代〉が58.1%、〈女性60～64歳〉が55.9%と高くなっている。

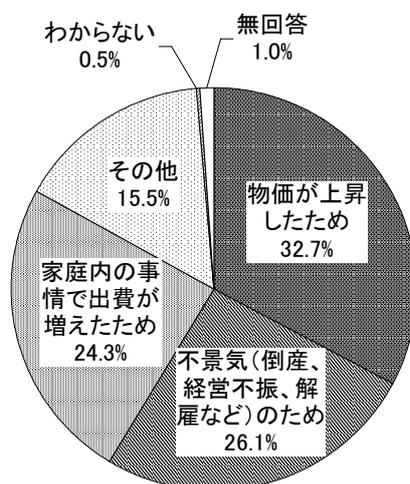


- ・過去の調査結果と比較すると、『悪くなった』が前回(平成25年)より3.1ポイント増加している。一方、『良くなった』は1割前後で推移している。

## (1-1) 暮らしが悪くなった理由

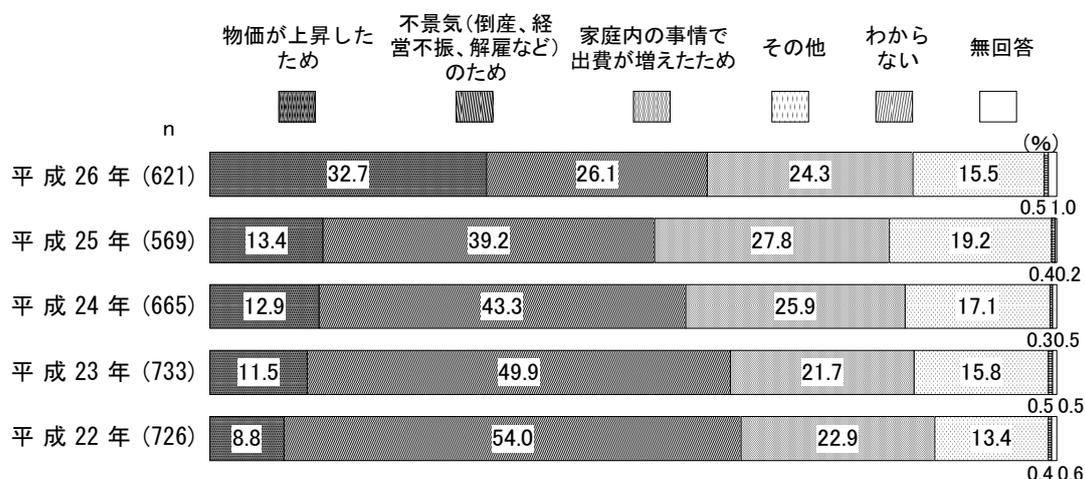
(問1で「少し悪くなった」、「かなり悪くなった」を選んだ方のみお答えください)

問1-1 悪くなったのは、主にどのようなことからですか。もっとも大きな要因を1つ選んでください。 [n=621]



(n=621)

- ・全体でみると、「物価が上昇したため」(32.7%)が3割を超えて最も高く、次いで「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」(26.1%)、「家庭内の事情で出費が増えたため」(24.3%)の順となっている。
- ・性別でみると、「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」では〈男性〉(29.3%)が〈女性〉(22.8%)より6.5ポイント高く、「家庭内の事情で出費が増えたため」では〈女性〉(29.5%)が〈男性〉(19.3%)より10.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「物価が上昇したため」では〈女性20歳代〉が55.6%、〈男性70歳以上〉が50.9%、〈女性70歳以上〉が49.2%と高くなっている。「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」では〈男性60~64歳〉が42.9%、〈男性30歳代〉が37.0%と高くなっている。

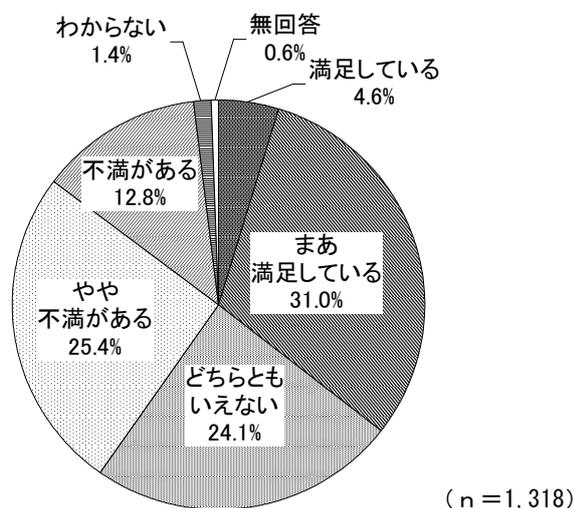


- ・過去の調査結果と比較すると、「物価が上昇したため」が前回(平成25年)より19.3ポイント増加している。一方、「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」が前回(平成25年)より13.1ポイント減少している。

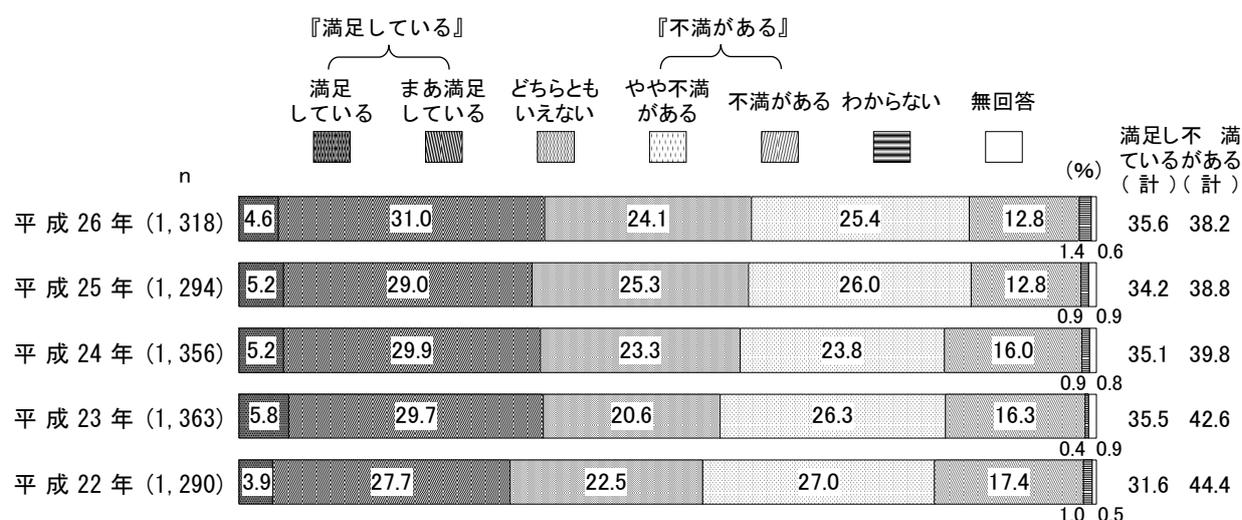
## (2) 暮らしの満足度

問2 あなたは、今の暮らしについてのどの程度満足していますか。次の中から1つ選んでください。

[n = 1,318]



- ・全体でみると、「満足している」(4.6%)と「まあ満足している」(31.0%)の2つを合わせた『満足している』(35.6%)は3割半ばとなっている。一方、「やや不満がある」(25.4%)と「不満がある」(12.8%)の2つを合わせた『不満がある』(38.2%)は4割近くとなっている。
- ・性別でみると、『満足している』では〈女性〉(38.4%)が〈男性〉(32.7%)より5.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、『満足している』では〈女性20歳代〉が47.7%と高くなっている。『不満がある』では〈男性60～64歳〉が47.4%、〈男性50歳代〉が47.3%と高くなっている。

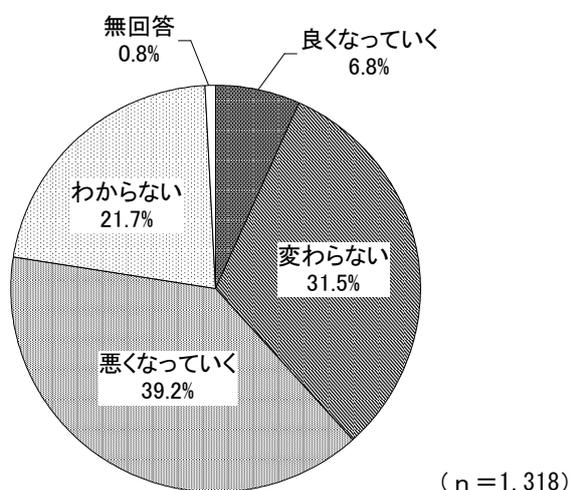


- ・過去の調査結果と比較すると、『不満がある』がやや減少傾向となっている。『満足している』は平成23年以降3割半ばで推移しており、大きな変化はみられない。

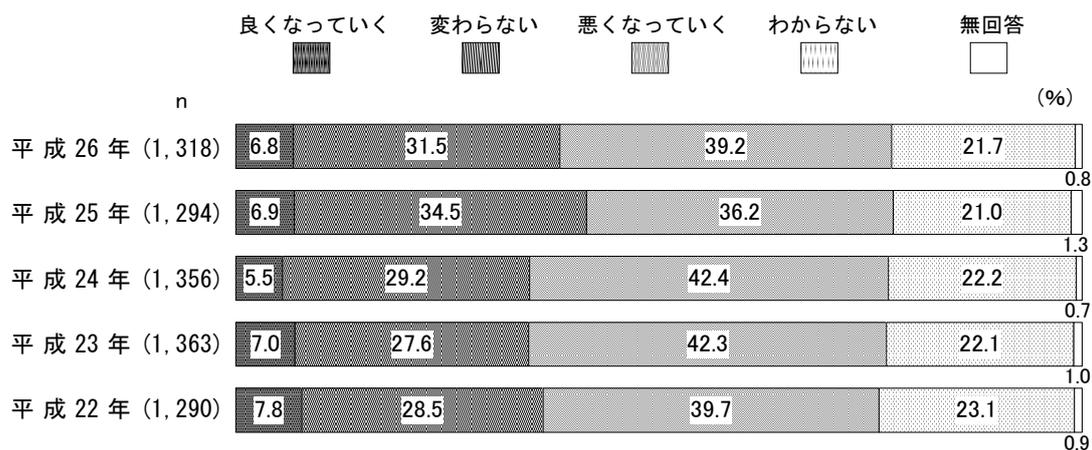
### (3) 今後の暮らしの状況

問3 あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。次の中から1つ選んでください。

[n = 1,318]



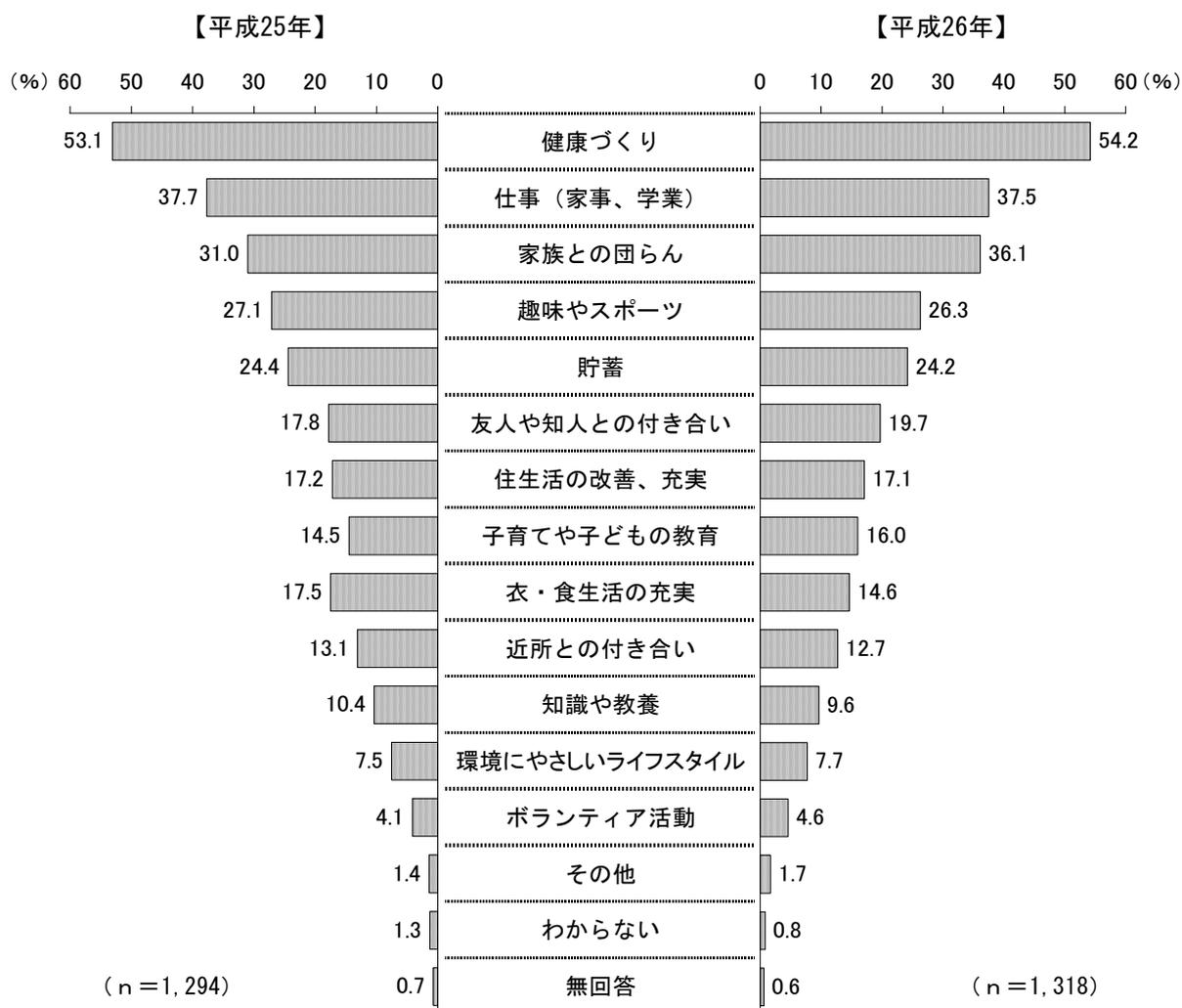
- ・全体で見ると、「良くなっていく」(6.8%)は1割に満たない。「変わらない」(31.5%)は3割を超えており、「悪くなっていく」(39.2%)はほぼ4割となっている。
- ・性別で見ると、「変わらない」では〈男性〉(32.1%)が〈女性〉(29.7%)より2.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「良くなっていく」では〈女性20歳代〉が20.5%、〈男性20歳代〉が18.2%と高くなっている。「悪くなっていく」では〈女性60～64歳〉が58.8%と高くなっている。



- ・過去の調査結果と比較すると、「変わらない」が前回(平成25年)より3.0ポイント減少している。一方、「悪くなっていく」は前回(平成25年)より3.0ポイント増加している。

#### (4) 今後の暮らしで力を入れる点

問4 あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いますか。  
次の中から3つまで選んでください。 [n=1,318]



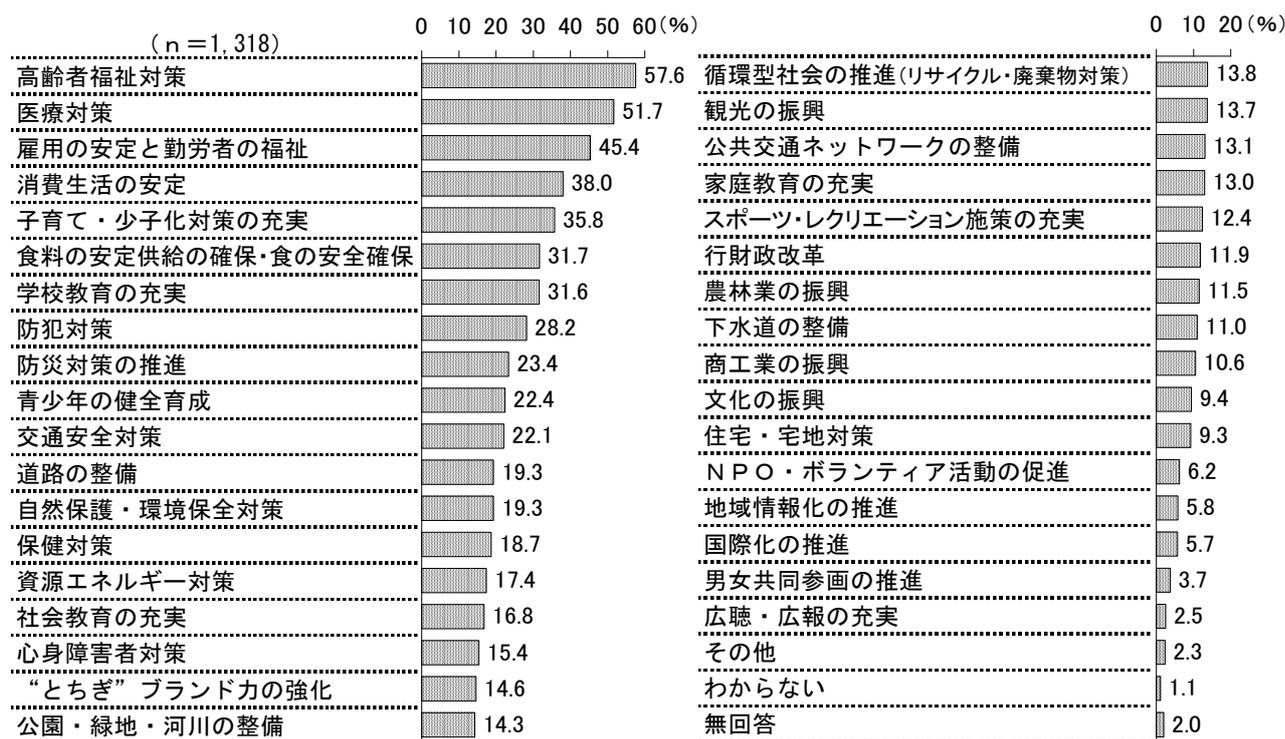
- ・全体で見ると、「健康づくり」(54.2%)が5割半ばで最も高く、次いで「仕事(家事、学業)」(37.5%)、「家族との団らん」(36.1%)、「趣味やスポーツ」(26.3%)、「貯蓄」(24.2%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「趣味やスポーツ」では〈男性〉(34.1%)が〈女性〉(20.0%)より14.1ポイント高くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈女性〉(20.7%)が〈男性〉(11.1%)より9.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「健康づくり」では〈女性60～64歳〉が79.4%、〈女性70歳以上〉が78.0%と高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈男性20歳代〉が70.5%、〈男性30歳代〉が63.5%と高くなっている。「趣味やスポーツ」では〈男性65～69歳〉が51.8%と高くなっている。「貯蓄」では〈男性20歳代〉が52.3%と高くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈女性30歳代〉が60.2%と高くなっている。「近所との付き合い」では〈女性70歳以上〉が35.5%と高くなっている。
- ・前回(平成25年)の調査結果と比較すると、「家族との団らん」が5.1ポイント増加している。

## 2 県政への要望について

### (1) 県政への要望

問5 県では、皆様のご理解とご協力を得ながら“「安心」「成長」「環境」をともにつくる元気度日本一 栃木県”をめざしていろいろな仕事をしています。あなたが、県政に対して、特に力を入れてほしいことは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,318]



- ・全体で見ると、「高齢者福祉対策」(57.6%)が6割近くで最も高く、次いで「医療対策」(51.7%)、「雇用の安定と勤労者の福祉」(45.4%)、「消費生活の安定」(38.0%)、「子育て・少子化対策の充実」(35.8%)、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」(31.7%)、「学校教育の充実」(31.6%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では〈女性〉(36.6%)が〈男性〉(25.6%)より11.0ポイント高く、「学校教育の充実」では〈女性〉(34.8%)が〈男性〉(27.6%)より7.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「高齢者福祉対策」では〈男性70歳以上〉が76.2%、〈女性70歳以上〉が73.0%と高くなっている。「雇用の安定と勤労者の福祉」では〈男性30歳代〉が58.7%と高くなっている。「子育て・少子化対策の充実」では〈女性30歳代〉が56.1%と高くなっている。「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では〈女性65～69歳〉が48.8%と高くなっている。「学校教育の充実」では〈女性30歳代〉が53.1%、〈女性40歳代〉が52.8%と高くなっている。

[過去の調査結果]

(上位5項目)

順位 年	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
平成26年	高齢者福祉対策 57.6%	医療対策 51.7%	雇用の安定と勤労者の福祉 45.4%	消費生活の安定 38.0%	子育て・少子化対策の充実 35.8%
平成25年	高齢者福祉対策 58.0%	医療対策 54.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 46.6%	子育て・少子化対策の充実 35.5%	学校教育の充実 35.1%
平成24年	高齢者福祉対策 55.8%	医療対策 52.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 48.7%	消費生活の安定 38.1%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 37.8%
平成23年	高齢者福祉対策 57.0%	医療対策 54.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 50.0%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 35.2%	消費生活の安定 35.0%
平成22年	高齢者福祉対策 62.1%	医療対策 57.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 53.3%	消費生活の安定 36.4%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 34.5%
平成21年	医療対策 65.1%	高齢者福祉対策 62.8%	雇用の安定と勤労者の福祉 47.3%	消費生活の安定 41.6%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 37.5%
平成20年	高齢者福祉対策 62.9%	医療対策 60.7%	消費生活の安定 44.3%	食料の安定供給の確保 41.6%	防犯対策 39.2%
平成19年	高齢者福祉対策 62.6%	医療対策 57.6%	防犯対策 36.3%	雇用の安定と勤労者の福祉 35.8%	学校教育の充実 35.6%
平成18年	高齢者福祉対策 55.2%	医療対策 51.4%	防犯対策 40.3%	子育て・少子化対策の充実 37.2%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.8%
平成17年	高齢者福祉対策 56.3%	医療対策 51.0%	防犯対策 43.6%	青少年の健全育成 37.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 37.6%
平成16年	高齢者福祉対策 55.1%	医療対策 45.6%	雇用の安定と勤労者の福祉 39.7%	防犯対策 35.9%	青少年の健全育成 34.3%
平成15年	高齢者福祉対策 55.6%	医療対策 46.7%	雇用の安定と勤労者の福祉 41.5%	青少年の健全育成／防犯対策 34.1%	
平成14年	高齢者福祉対策 57.1%	医療対策 48.3%	雇用の安定と勤労者の福祉 41.7%	青少年の健全育成 34.5%	廃棄物の処理対策 32.7%
平成13年	高齢者福祉対策 51.7%	青少年の健全育成 43.6%	廃棄物の処理対策 42.0%	医療対策 39.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.2%
平成12年	老人福祉対策 41.5%	青少年の健全育成 39.3%	廃棄物の処理対策 34.1%	学校教育の充実 34.0%	雇用の安定と勤労者の福祉 31.3%

※平成12年の「高齢者福祉対策」は「老人福祉対策」

平成12年の「消費生活の安定」は「消費者保護対策」

平成20年まで「食料の安定供給の確保・食の安全確保」は「食料の安定供給の確保」であり、平成13年より加わった選択肢である。

「子育て・少子化対策の充実」は平成13年より加わった選択肢である。

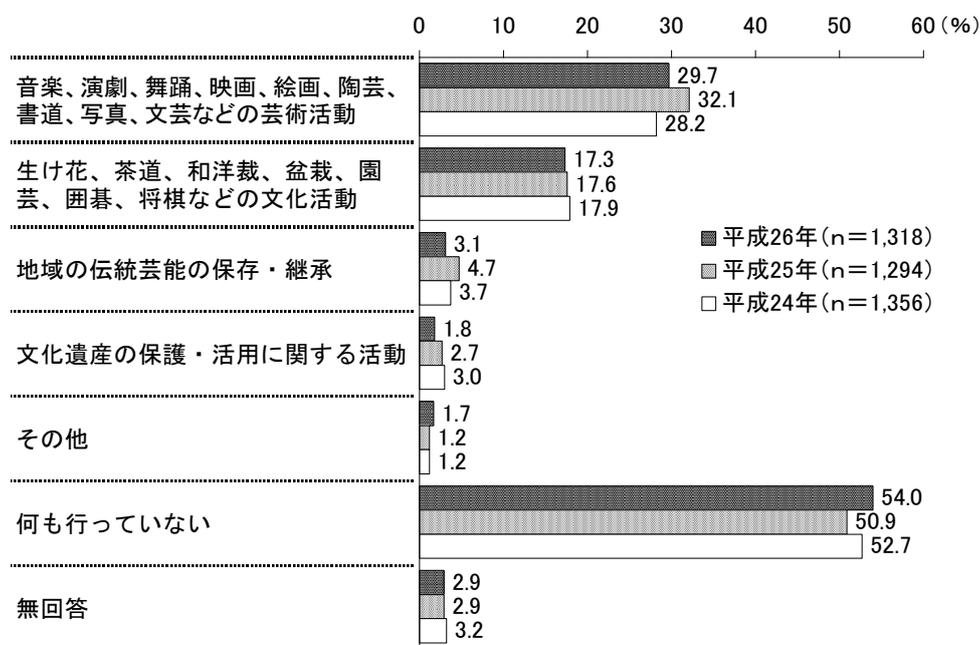
- ・ 上位5項目を過去の調査結果と比較すると、上位3項目は平成22年以降同じ順位となっている。また、「消費生活の安定」は前回（平成25年）は6位であったが、今回は4位に上昇している。

### 3 日常生活について

#### (1) 芸術・文化活動について

問6 あなたが日ごろ行っている芸術・文化活動は、どのようなものですか。  
次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,318]



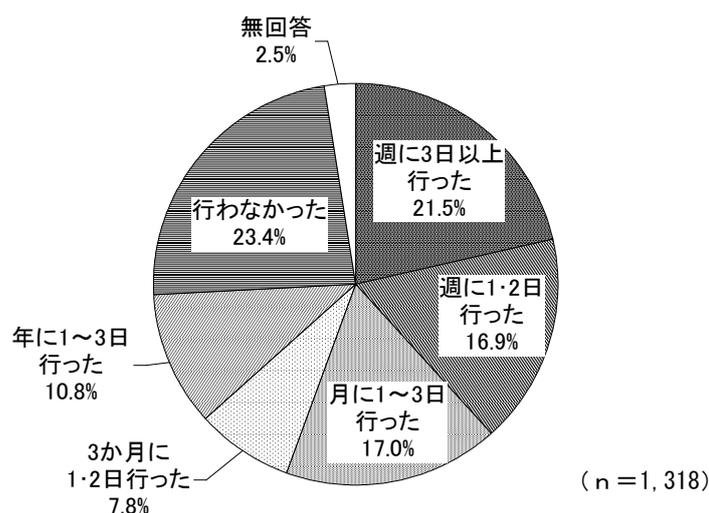
- ・全体で見ると、「音楽、演劇、舞踊、映画、絵画、陶芸、書道、写真、文芸などの芸術活動（以下『芸術活動』という。）」（29.7%）が3割で最も高く、次いで「生け花、茶道、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動（以下『文化活動』という。）」（17.3%）が2割近くとなっている。一方、「何も行っていない」（54.0%）は5割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、『芸術活動』では〈女性〉（32.6%）が〈男性〉（26.3%）より6.3ポイント高く、『文化活動』では〈女性〉（19.2%）が〈男性〉（15.2%）より4.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『文化活動』では、女性は高い年代ほど割合が高くなっている。
- ・過去の調査結果と比較すると、『芸術活動』が前回（平成25年）より2.4ポイント減少している。一方、「何も行っていない」が前回（平成25年）より3.1ポイント増加している。

## (2) スポーツ活動について

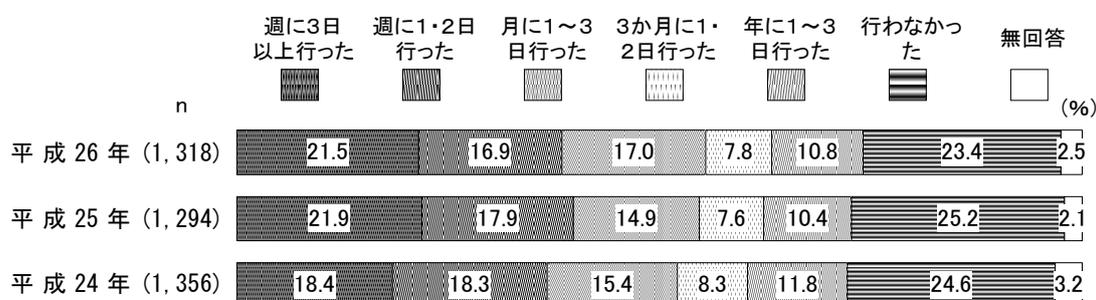
問7 あなたは、この1年間にスポーツ(※)を行いましたか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,318]

※ スポーツとは、ウォーキング、散歩、ダンス、ボウリング、ハイキング・キャンプなどのアウトドアスポーツ、軽い体操、レクリエーションスポーツを含みます。



- ・全体で見ると、「週に3日以上行った」(21.5%)は2割を超えている。「週に1・2日行った」(16.9%)と「月に1～3日行った」(17.0%)はともに2割近くとなっている。一方、「行わなかった」(23.4%)は2割を超えている。
- ・性別で見ると、「週に3日以上行った」では〈男性〉(25.1%)が〈女性〉(18.5%)より6.6ポイント高くなっている。「行わなかった」では〈女性〉(24.7%)が〈男性〉(22.2%)より2.5ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「週に3日以上行った」では〈男性65～69歳〉が42.4%、〈男性70歳以上〉が37.3%と高くなっている。「行わなかった」では〈男性40歳代〉が33.0%、〈女性70歳以上〉が31.9%と高くなっている。

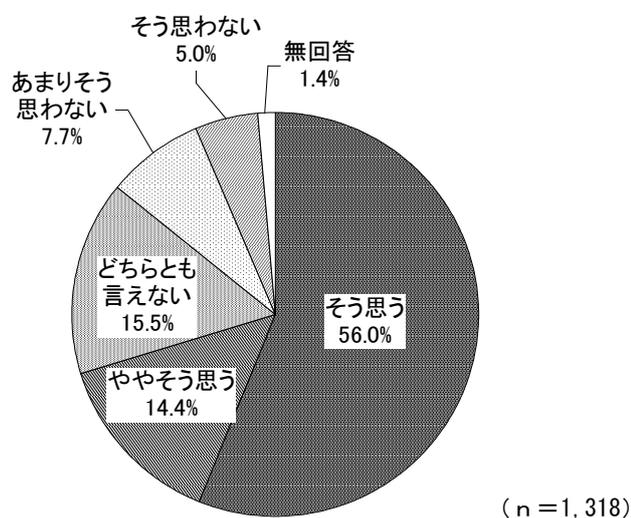


- ・過去の調査結果と比較すると、「月に1～3日行った」が前回(平成25年)より2.1ポイント増加している。

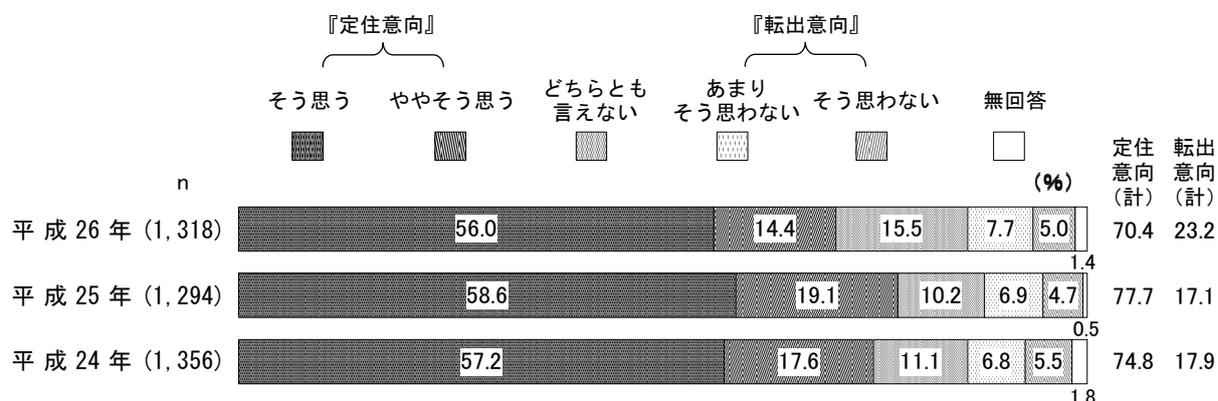
### (3) 住んでいる地域について

問8 あなたは、住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思いますか。  
次の中から1つ選んでください。

[n=1,318]



- ・全体でみると、「そう思う」(56.0%)と「ややそう思う」(14.4%)の2つを合わせた『定住意向』(70.4%)は7割となっている。一方、「あまりそう思わない」(7.7%)と「そう思わない」(5.0%)の2つを合わせた『転出意向』(12.7%)は1割を超えている。
- ・性別でみると、『定住意向』では〈男性〉(72.9%)が〈女性〉(67.8%)より5.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、『定住意向』では〈男性70歳以上〉が82.5%、〈男性65～69歳〉が78.8%と高くなっている。『転出意向』では〈女性20歳代〉が20.4%、〈女性60～64歳〉が19.1%と高くなっている。

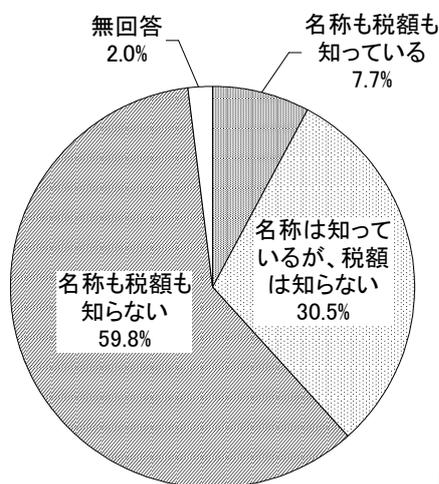


- ・過去の調査結果と比較すると、『定住意向』が前回(平成25年)より7.3ポイント減少している。一方、「どちらとも言えない」が前回(平成25年)より5.3ポイント増加している。

#### (4) 「とちぎの元気な森づくり県民税」について

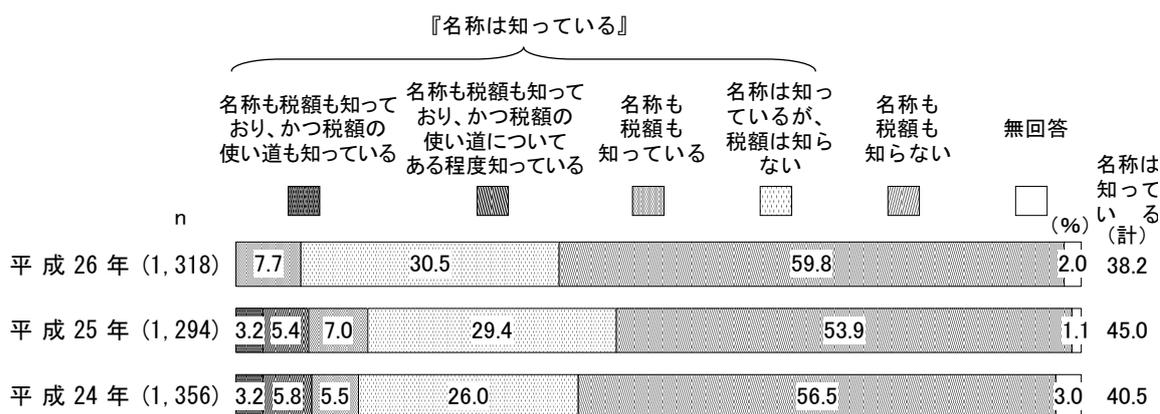
問9 あなたは、平成20年4月から本県で導入している「とちぎの元気な森づくり県民税」いわゆる森林環境税を知っていますか。次の中から1つ選んでください。

[ n = 1, 318 ]



( n = 1, 318 )

- ・全体でみると、「名称も税額も知っている」(7.7%)が1割近く、「名称は知っているが、税額は知らない」(30.5%)はほぼ3割となっており、この2つを合わせた『名称は知っている』(38.2%)は4割近くとなっている。一方、「名称も税額も知らない」(59.8%)は6割となっている。
- ・性別でみると、『名称は知っている』では〈男性〉(45.7%)が〈女性〉(31.7%)より14.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、『名称は知っている』では〈男性70歳以上〉が68.2%と高くなっている。「名称も税額も知らない」では〈女性20歳代〉が88.6%、〈男性20歳代〉が79.5%と高くなっている。



※「名称も税額も知っており、かつ税額の使い道も知っている」と「名称も税額も知っており、かつ税額の使い道についてある程度知っている」はともに平成25年調査まで聞いており、今回調査では選択肢に加えていない。  
 ※平成24年・25年調査では、「名称も税額も知っている」は「名称と税額のみ知っている」としていた。

- ・過去の調査結果との比較については、前回(平成25年)以前と選択肢が異なるため参考にとどまるが、「名称も税額も知らない」が前回(平成25年)より5.9ポイント増加している。

## 4 これからの時代への対応について

### (1) 現在の社会や今後の社会の変化で関心を持っているもの

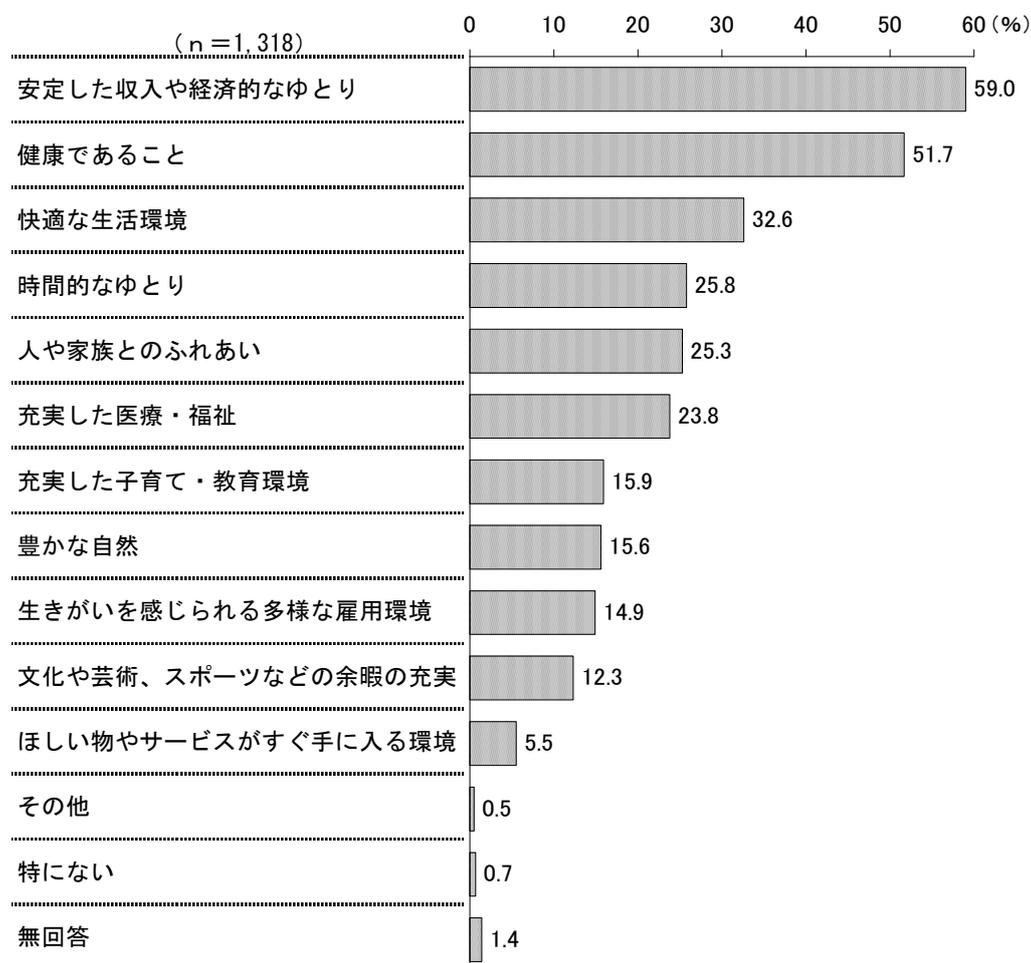
問10 あなたは、現在の社会や今後予想される社会の変化のうち、何に関心や懸念を持っていますか。次の中から5つまで選んでください。 [n=1,318]



- ・全体でみると、「高齢化の進行に伴う医療、福祉、年金などの社会保障制度の行方」(80.3%)が8割で最も高く、次いで「安定した職に就けない若者の増加」(46.7%)、「地震など大規模災害の発生」(41.5%)、「少子化や家庭環境の変化に伴う子育て・教育環境の変化」(40.1%)、「自然環境の変化や地球温暖化の進行」(33.4%)、「高齢化の進行に伴う働き手の減少」(31.0%)の順となっている。
- ・性別でみると、「高齢化の進行に伴う働き手の減少」では〈男性〉(36.2%)が〈女性〉(26.6%)より9.6ポイント高くなっている。「地震など大規模災害の発生」では〈女性〉(45.8%)が〈男性〉(36.9%)より8.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「高齢化の進行に伴う医療、福祉、年金などの社会保障制度の行方」は、男女ともすべての年代で高くなっている。「少子化や家庭環境の変化に伴う子育て・教育環境の変化」では〈女性30歳代〉が66.3%と高くなっている。

## (2) 「豊かさ」のイメージ

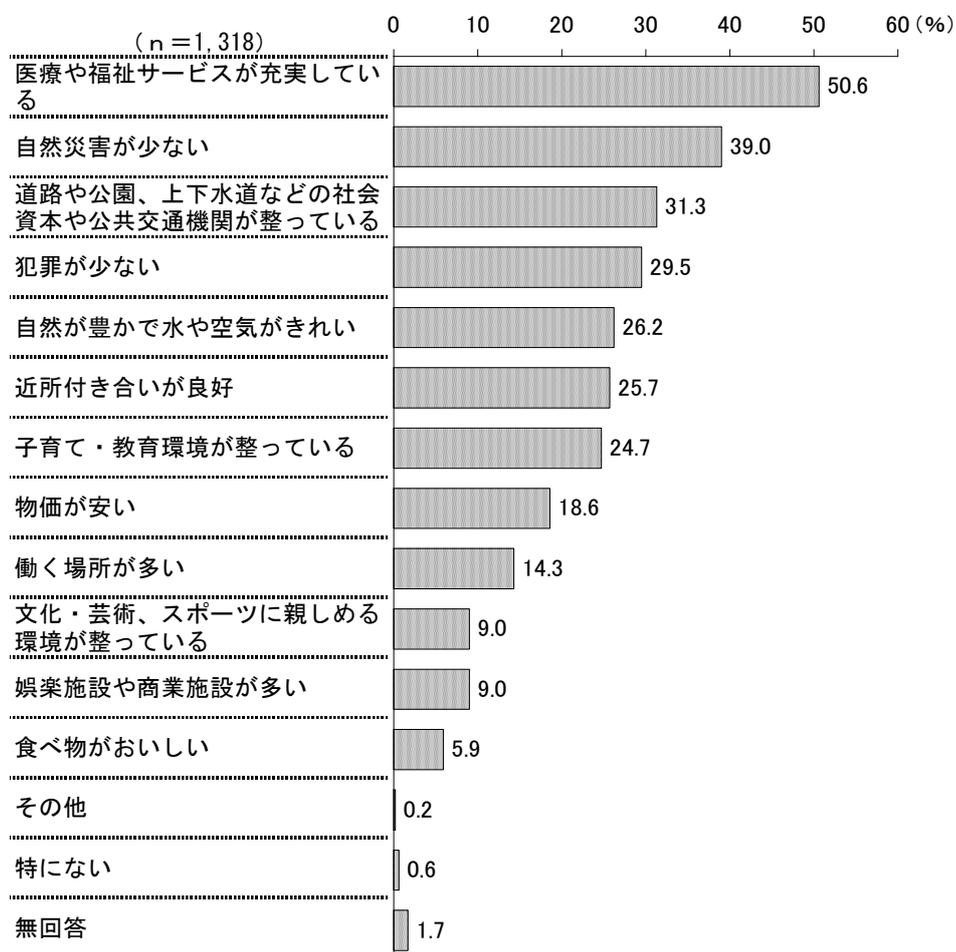
問11 あなたは、「豊かさ」という言葉から、どのようなことをイメージしますか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,318]



- ・全体でみると、「安定した収入や経済的なゆとり」(59.0%)がほぼ6割で最も高く、次いで「健康であること」(51.7%)が5割を超え、「快適な生活環境」(32.6%)、「時間的なゆとり」(25.8%)、「人や家族とのふれあい」(25.3%)、「充実した医療・福祉」(23.8%)の順となっている。
- ・性別でみると、「安定した収入や経済的なゆとり」では〈女性〉(61.8%)が〈男性〉(57.3%)より4.5ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「安定した収入や経済的なゆとり」では〈男性20歳代〉が77.3%と高くなっている。「健康であること」では〈女性70歳以上〉が72.3%と高くなっている。「充実した医療・福祉」では〈男性70歳以上〉が38.9%と高くなっている。「充実した子育て・教育環境」では〈男性30歳代〉が39.7%と高くなっている。

### (3) 「住みやすさ」のイメージ

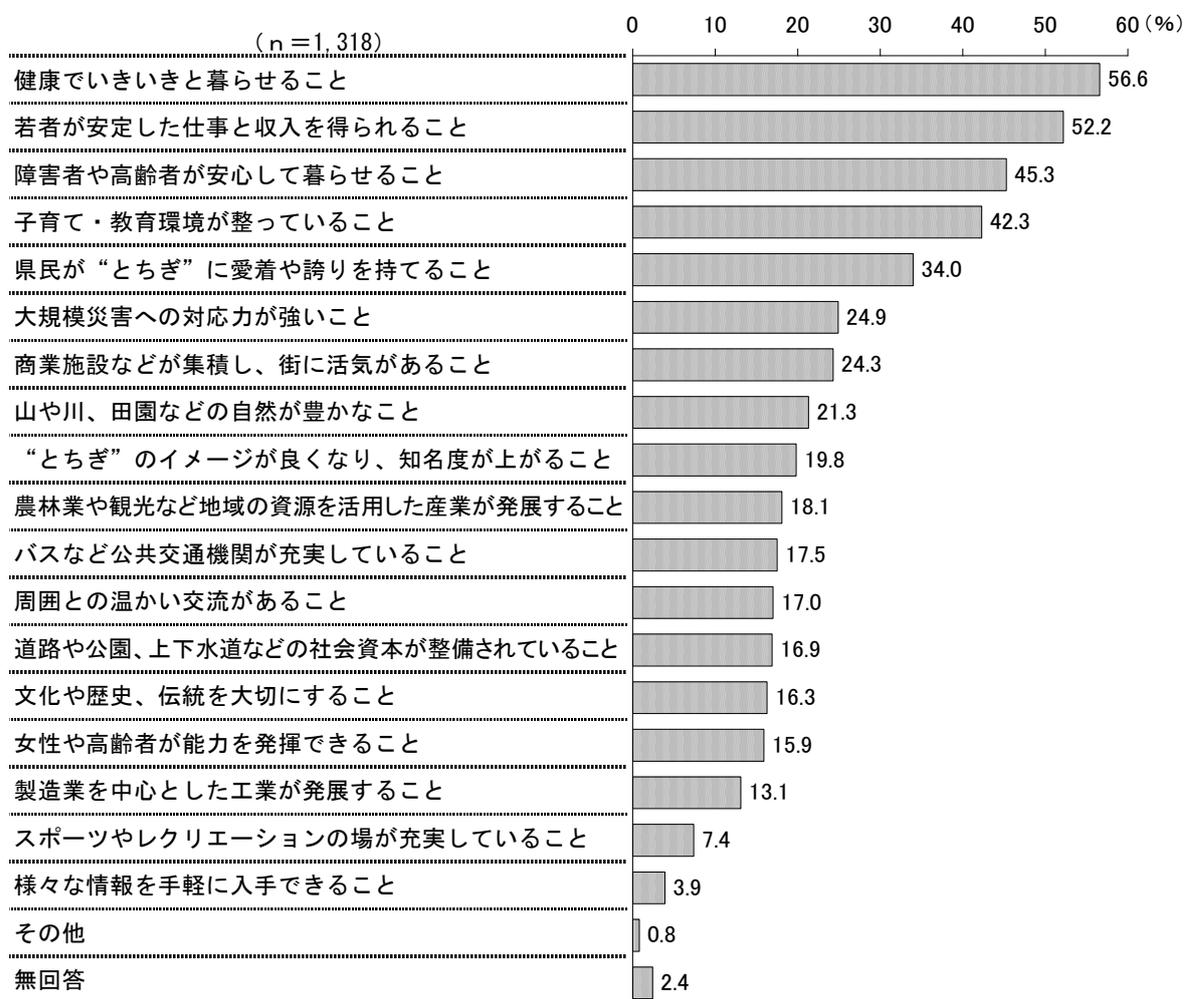
問12 あなたは、「住みやすさ」という言葉から、どのようなことをイメージしますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。 [n=1,318]



- ・全体で見ると、「医療や福祉サービスが充実している」（50.6%）がほぼ5割で最も高く、次いで「自然災害が少ない」（39.0%）、「道路や公園、上下水道などの社会資本や公共交通機関が整っている」（31.3%）、「犯罪が少ない」（29.5%）、「自然が豊かで水や空気がきれい」（26.2%）の順となっている。
- ・性別で見ると、「自然災害が少ない」では〈女性〉（42.4%）が〈男性〉（35.5%）より6.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「自然災害が少ない」では男女とも高い年代ほど割合が高くなっている。「自然が豊かで水や空気がきれい」では〈男性65～69歳〉が49.4%と高くなっている。「子育て・教育環境が整っている」では男女とも〈30歳代〉が他の年代よりも高く、〈女性30歳代〉が58.2%、〈男性30歳代〉が49.2%となっている。

#### (4) これからのとちぎづくりのために必要なこと

問13 あなたは、これからのとちぎづくりのためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から5つまで選んでください。 [n=1,318]

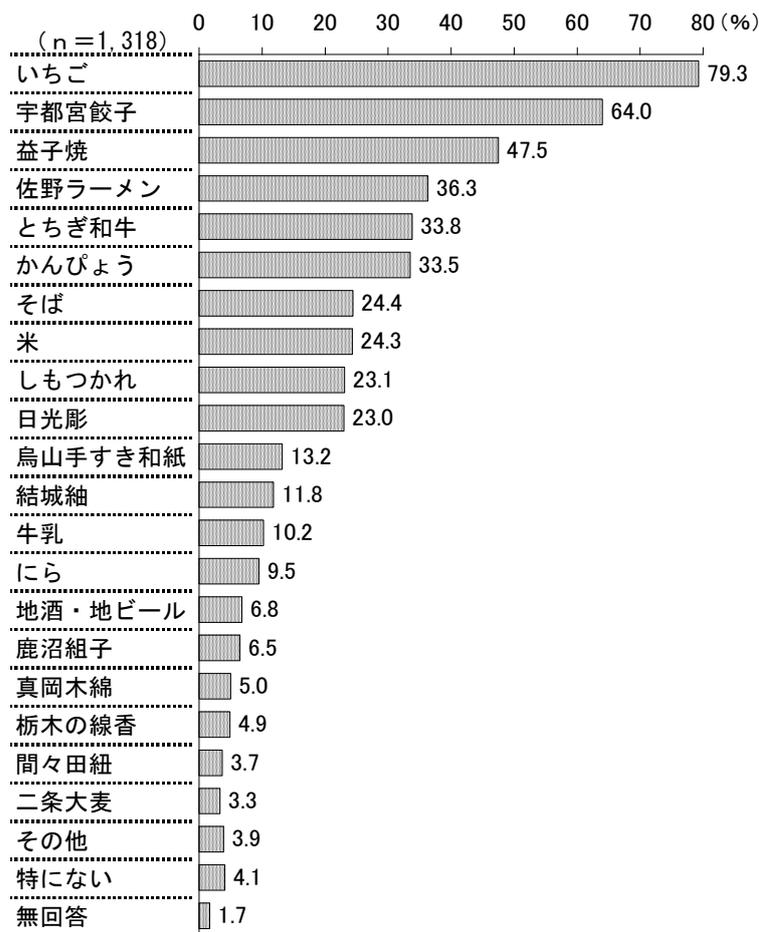


- ・全体で見ると、「健康でいきいきと暮らせること」(56.6%)が6割近くで最も高く、次いで「若者が安定した仕事と収入を得られること」(52.2%)、「障害者や高齢者が安心して暮らせること」(45.3%)、「子育て・教育環境が整っていること」(42.3%)、「県民が“とちぎ”に愛着や誇りを持てること」(34.0%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「山や川、田園などの自然が豊かなこと」では〈男性〉(24.4%)が〈女性〉(17.8%)より6.6ポイント高くなっている。「大規模災害への対応力が強いこと」では〈女性〉(27.6%)が〈男性〉(22.2%)より5.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「障害者や高齢者が安心して暮らせること」では〈男性70歳以上〉が60.3%と高くなっている。「子育て・教育環境が整っていること」では男女とも〈30歳代〉が他の年代よりも高く、〈女性30歳代〉が64.3%、〈男性30歳代〉が49.2%と高くなっている。「商業施設などが集積し、街に活気があること」では〈男性30歳代〉が41.3%と高くなっている。

## 5 とちぎ自慢について

### (1) 県外の友人に自慢したい栃木県の特産品

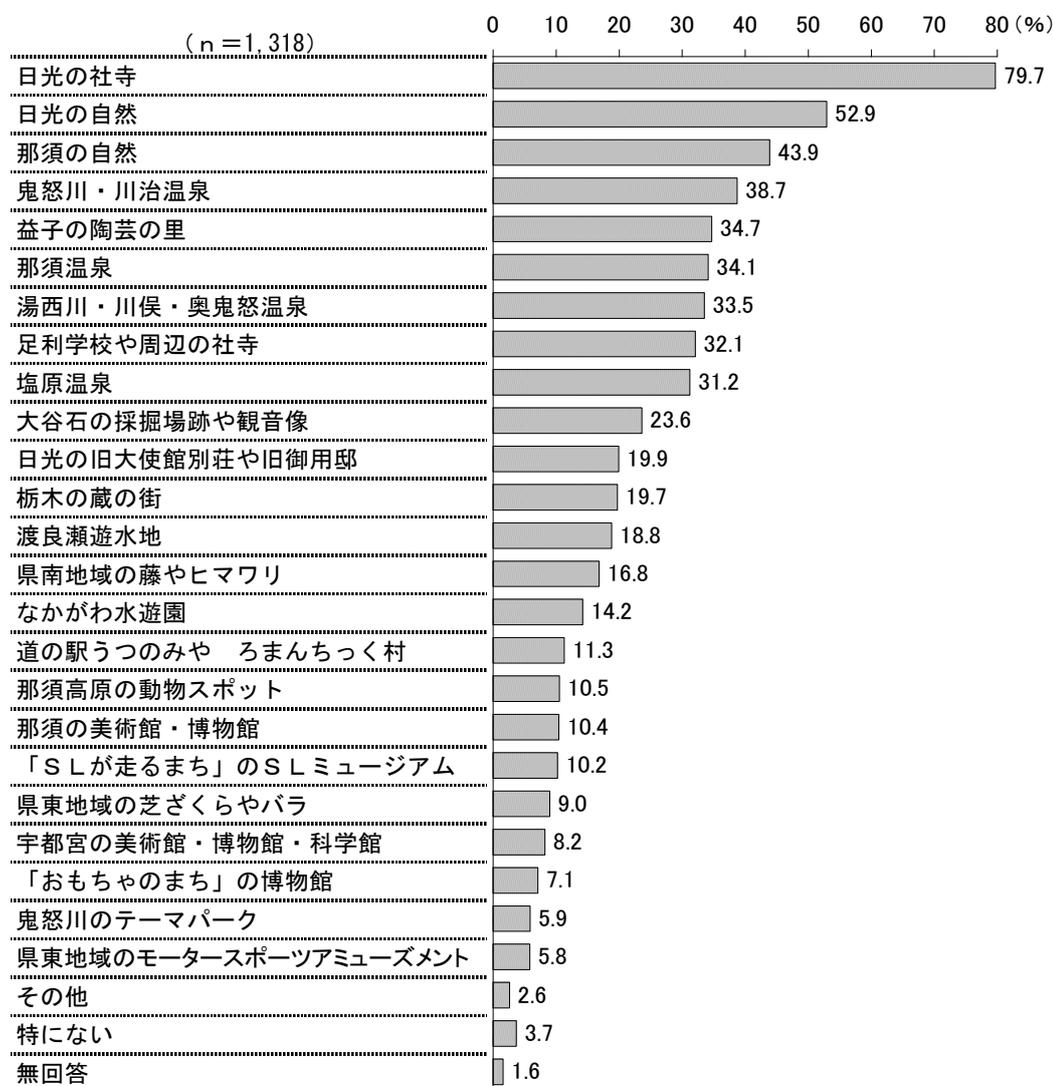
問14 あなたが県外の友人に自慢したい栃木県の特産品は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。 [n=1,318]



- ・全体で見ると、「いちご」(79.3%)がほぼ8割で最も高く、次いで「宇都宮餃子」(64.0%)、「益子焼」(47.5%)、「佐野ラーメン」(36.3%)、「とちぎ和牛」(33.8%)、「かんぴょう」(33.5%)の順となっている。
- ・性別で見ると、上位10項目では、「そば」を除き、男性よりも女性のほうが割合が高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、男女ともすべての年代において「いちご」の割合が最も高くなっている。「宇都宮餃子」では〈女性40歳代〉が75.6%と高く、「益子焼」では〈女性60～64歳〉が58.8%と高くなっている。「かんぴょう」では〈女性70歳以上〉が51.1%、〈男性70歳以上〉が50.8%と高くなっている。「そば」では〈男性70歳以上〉が37.3%と高く、「しもつかれ」では〈女性70歳以上〉が41.8%と高くなっている。「日光彫」では〈女性70歳以上〉が42.6%と高くなっている。

## (2) 県外の友人に自慢したい栃木県の観光や施設

問15 あなたが県外の友人に自慢したい栃木県の観光や施設はどこですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。 [n = 1,318]

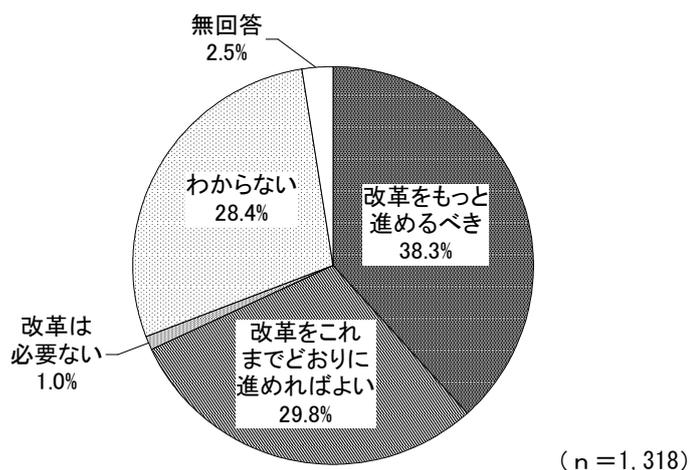


- ・全体で見ると、「日光の社寺」(79.7%)が8割で最も高く、次いで「日光の自然」(52.9%)、「那須の自然」(43.9%)、「鬼怒川・川治温泉」(38.7%)、「益子の陶芸の里」(34.7%)、「那須温泉」(34.1%)の順となっており、歴史、自然、温泉の割合が高くなっている。
- ・性別で見ると、「那須の自然」では〈女性〉(48.2%)が〈男性〉(38.9%)より9.3ポイント高く、「益子の陶芸の里」では〈女性〉(38.8%)が〈男性〉(29.9%)より8.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、男女ともすべての年代において「日光の社寺」の割合が最も高くなっている。「日光の自然」では〈男性65～69歳〉が70.6%と高く、「那須の自然」では〈女性60～64歳〉が58.8%と高くなっている。「鬼怒川・川治温泉」では〈男性70歳以上〉が54.0%と高く、「益子の陶芸の里」では〈女性70歳以上〉が53.9%と高くなっている。「足利学校や周辺の社寺」では〈女性70歳以上〉が49.6%と高く、「大谷石の採掘場跡や観音像」では〈女性70歳以上〉が39.7%と高くなっている。

## 6 行財政改革について

### (1) 行財政改革についての考え

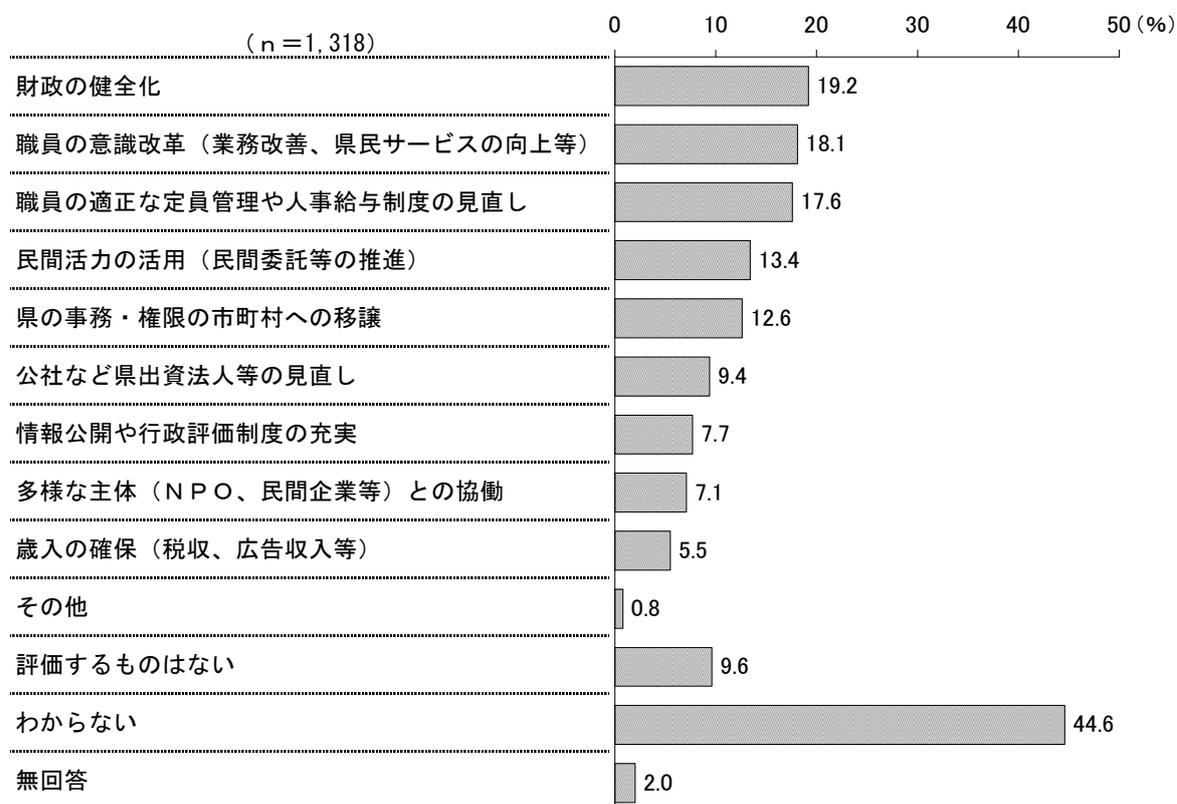
問16 県では、効果的かつ効率的にサービスを提供していくため、様々な行財政改革に取り組んできていますが、あなたは、県の行財政改革についてどう思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,318]



- ・全体でみると、「改革をもっと進めるべき」(38.3%)が4割近くで、「改革をこれまでどおりに進めればよい」(29.8%)が3割となっている。「改革は必要ない」(1.0%)はわずかである。
- ・性別でみると、「改革をもっと進めるべき」では〈男性〉(42.0%)が〈女性〉(35.5%)より6.5ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「改革をもっと進めるべき」では〈男性60～64歳〉で52.6%、〈男性20歳代〉で47.7%と高くなっている。

## (2) 評価する行財政改革の取組

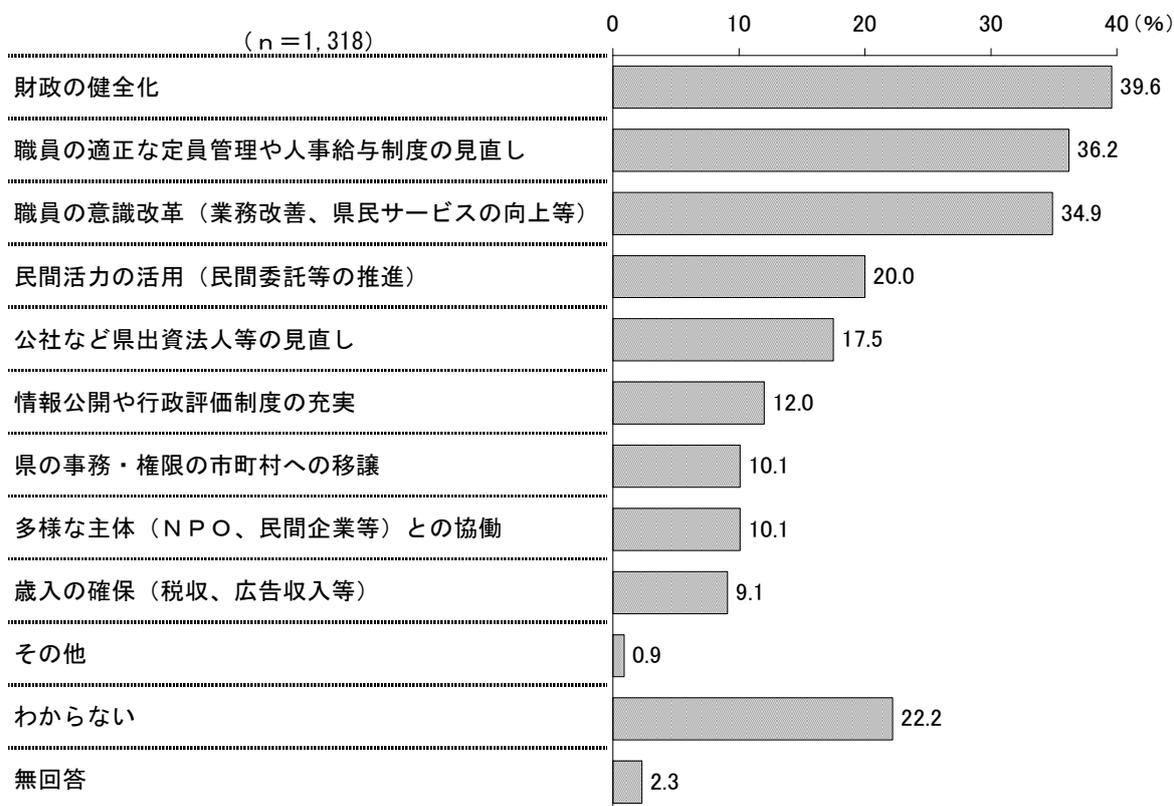
問17 これまでの県の行財政改革の取組の中であなたが評価するものはどれですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,318]



- ・全体で見ると、「財政の健全化」(19.2%)がほぼ2割で最も高く、次いで「職員の意識改革(業務改善、県民サービスの向上等)」(18.1%)、「職員の適正な定員管理や人事給与制度の見直し」(17.6%)、「民間活力の活用(民間委託等の推進)」(13.4%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「職員の意識改革(業務改善、県民サービスの向上等)」では〈男性〉(21.7%)が〈女性〉(14.7%)より7.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、〈男性70歳以上〉が、「財政の健全化」では37.3%、「職員の意識改革(業務改善、県民サービスの向上等)」では34.1%、「民間活力の活用(民間委託等の推進)」では26.2%と高くなっている。「多様な主体(NPO、民間企業等)との協働」では〈女性60~64歳〉が17.6%と高くなっている。「評価するものはない」では〈男性20歳代〉が22.7%と高くなっている。

### (3) 今後力を入れるべき行財政改革の取組

問18 あなたは、今後の行財政改革では、特にどのような取組に力を入れていくべきだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,318]



- ・全体で見ると、「財政の健全化」(39.6%)が4割で最も高く、次いで「職員の適正な定員管理や人事給与制度の見直し」(36.2%)、「職員の意識改革(業務改善、県民サービスの向上等)」(34.9%)、「民間活力の活用(民間委託等の推進)」(20.0%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「民間活力の活用(民間委託等の推進)」では〈男性〉(25.3%)が〈女性〉(16.2%)より9.1ポイント高く、「県の事務・権限の市町村への移譲」でも〈男性〉(14.3%)が〈女性〉(6.5%)より7.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「財政の健全化」では〈男性40歳代〉が54.6%と高くなっている。「民間活力の活用(民間委託等の推進)」では〈男性70歳以上〉が31.0%と高く、「県の事務・権限の市町村への移譲」でも〈男性70歳以上〉が21.4%と高くなっている。

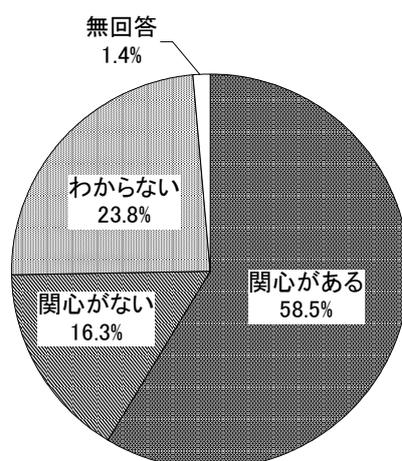
## 7 社会貢献活動について

### (1) 社会貢献活動に対する関心

問19 あなたは、社会貢献活動(※)に関心がありますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,318]

※ 「社会貢献活動」とは、例えば、募金、寄附、プルタブ、エコキャップなどの物品収集や公園清掃などの活動、ボランティアやNPO（特定非営利活動団体）活動、コミュニティ活動、自治会、育成会等の地域活動などをいいます。

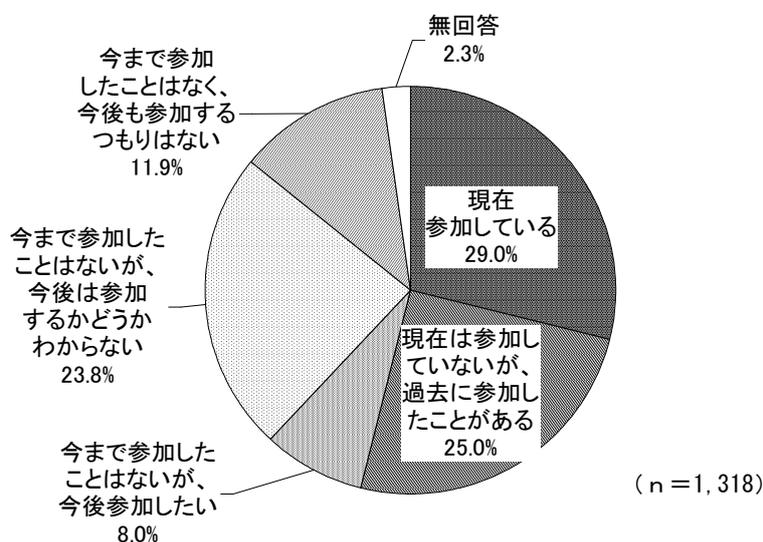


(n=1,318)

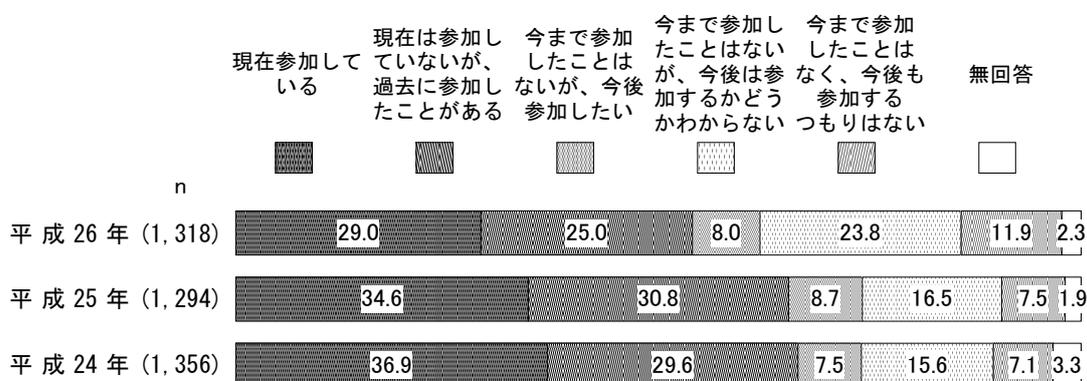
- ・全体でみると、「関心がある」(58.5%)が6割近くとなっている。「関心がない」(16.3%)は1割半ばで、「わからない」(23.8%)は2割を超えている。
- ・性別でみると、「関心がある」では〈女性〉(61.1%)が〈男性〉(55.8%)より5.3ポイント高くなっている。「関心がない」では〈男性〉(20.0%)が〈女性〉(13.5%)より6.5ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「関心がある」では〈女性65～69歳〉が68.6%と高くなっている。「関心がない」では〈男性20歳代〉が34.1%と高くなっている。

## (2) 社会貢献活動の参加状況

問20 あなたは、社会貢献活動に参加したことがありますか。また、今後参加したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,318]



- ・全体でみると、「現在参加している」(29.0%)がほぼ3割となっている。「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」(25.0%)は2割半ばで、「今まで参加したことはないが、今後は参加するかどうか分からない」(23.8%)は2割を超えている。
- ・性別でみると、「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」では〈女性〉(27.8%)が〈男性〉(21.8%)より6.0ポイント高くなっている。「今まで参加したことはないが、今後は参加するかどうか分からない」では〈男性〉(26.1%)が〈女性〉(21.4%)より4.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「現在参加している」では〈女性30歳代〉が42.9%、〈女性40歳代〉が41.7%、〈男性50歳代〉が40.9%と高くなっている。



- ・過去の調査結果と比較すると、「現在参加している」が前回(平成25年)より5.6ポイント、「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」が前回(平成25年)より5.8ポイント減少している。「今まで参加したことはないが、今後は参加するかどうか分からない」は前回(平成25年)より7.3ポイント増加している。

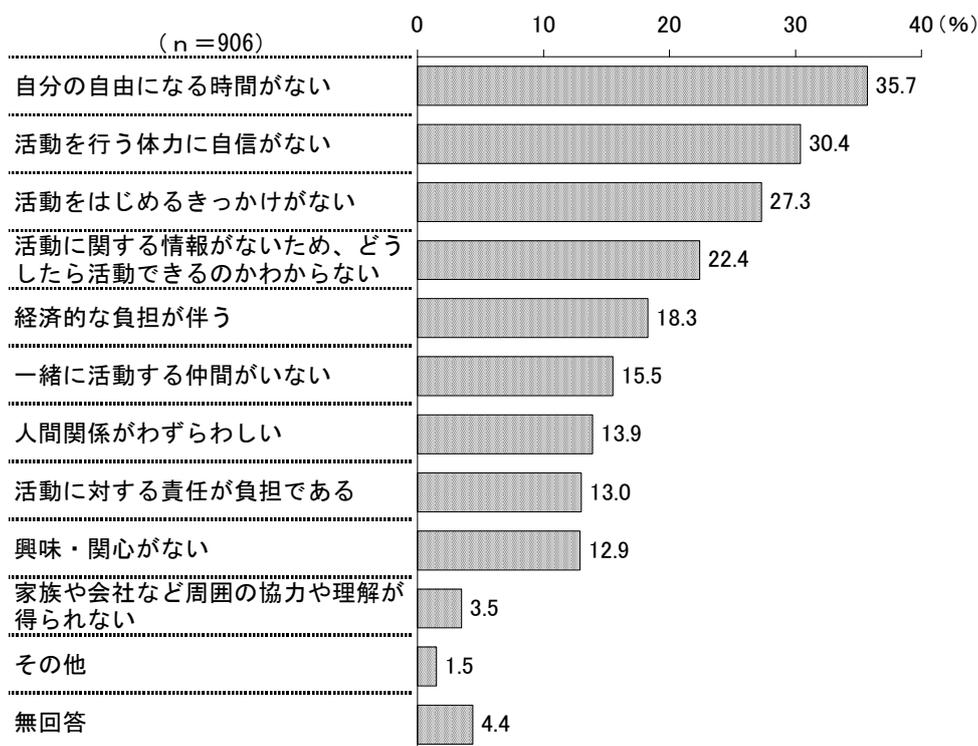
## (2-1) 社会貢献活動に参加しない理由

(問20で選択肢「現在参加している」以外を選んだ方のみお答えください)

問20-1 あなたが社会貢献活動に参加しない理由は何ですか。

次の中から主な理由を3つまで選んでください。

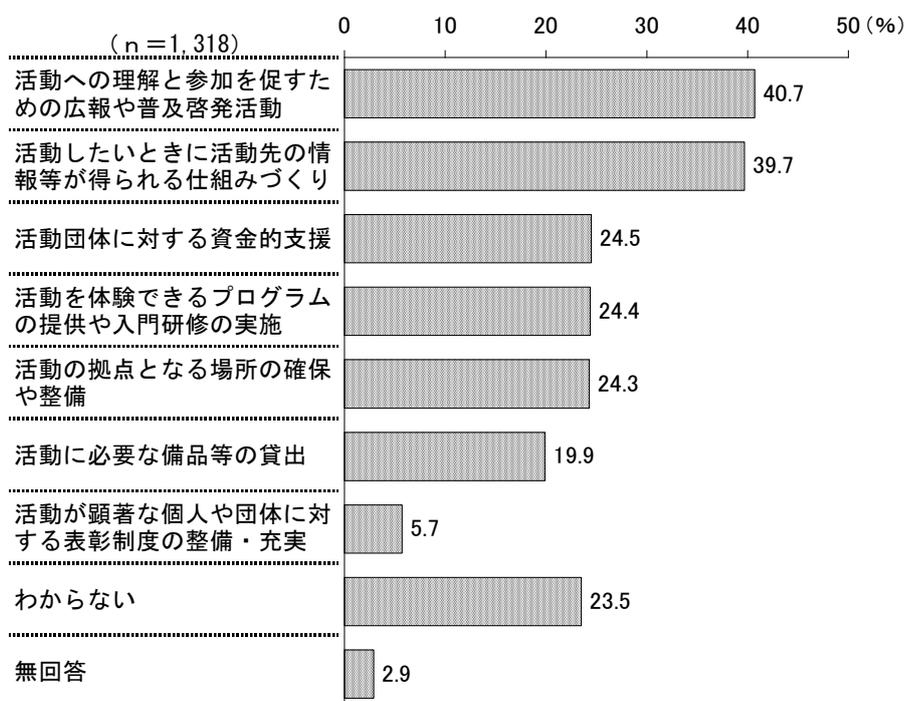
[n=906]



- ・全体でみると、「自分の自由になる時間がない」(35.7%)が3割半ばで最も高く、次いで「活動を行う体力に自信がない」(30.4%)、「活動をはじめのきっかけがない」(27.3%)、「活動に関する情報がないため、どうしたら活動できるのかわからない」(22.4%)の順となっている。
- ・性別でみると、「活動を行う体力に自信がない」では〈女性〉(35.2%)が〈男性〉(25.4%)より9.8ポイント高くなっている。「興味・関心がない」では〈男性〉(16.8%)が〈女性〉(9.5%)より7.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「自分の自由になる時間がない」では〈男性30歳代〉が56.9%と高くなっている。「活動を行う体力に自信がない」では〈女性70歳以上〉が75.7%と高くなっている。「活動をはじめのきっかけがない」では〈女性20歳代〉が51.4%と高く、「活動に関する情報がないため、どうしたら活動できるのかわからない」でも〈女性20歳代〉が40.5%と高くなっている。

### (3) 社会貢献活動を支援するための行政の取組

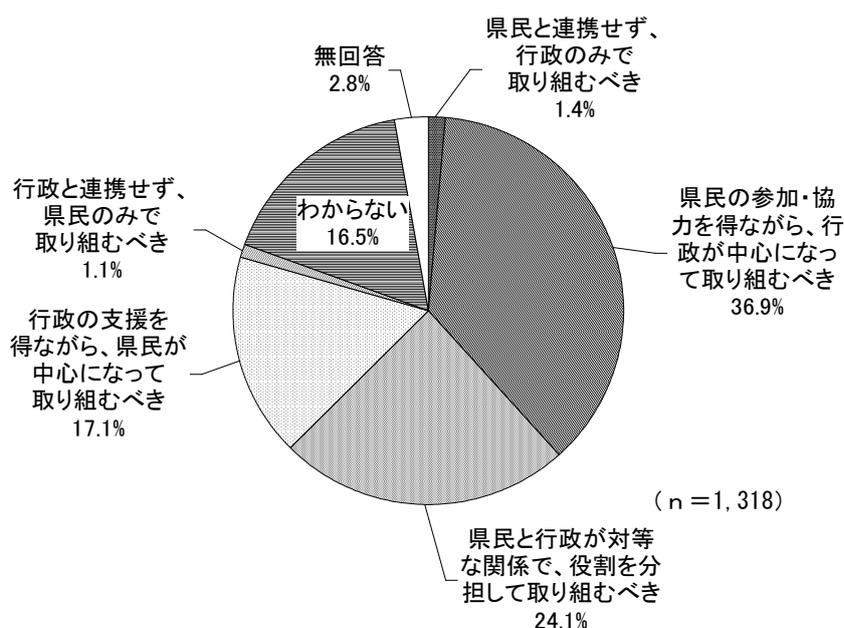
問21 あなたは、ボランティアやNPO等による社会貢献活動を支援するため、行政は今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,318]



- ・全体でみると、「活動への理解と参加を促すための広報や普及啓発活動」(40.7%)がほぼ4割で最も高く、次いで「活動したいときに活動先の情報等が得られる仕組みづくり」(39.7%)、「活動団体に対する資金的支援」(24.5%)、「活動を体験できるプログラムの提供や入門研修の実施」(24.4%)、「活動の拠点となる場所の確保や整備」(24.3%)の順となっている。
- ・性別でみると、「活動したいときに活動先の情報等が得られる仕組みづくり」では〈女性〉(42.0%)が〈男性〉(37.7%)より4.3ポイント高くなっている。「活動の拠点となる場所の確保や整備」では〈男性〉(26.5%)が〈女性〉(22.5%)より4.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「活動への理解と参加を促すための広報や普及啓発活動」では〈女性20歳代〉が52.3%、〈男性65~69歳〉が51.8%と高くなっている。「活動したいときに活動先の情報等が得られる仕組みづくり」では〈女性50歳代〉が49.6%と高くなっている。「活動団体に対する資金的支援」では〈女性40歳代〉が33.1%と高くなっている。「活動を体験できるプログラムの提供や入門研修の実施」では〈男性40歳代〉が34.0%と高くなっている。

#### (4) 社会貢献活動と行政の協力・連携についての考え方

問22 県は、今後、地域の課題解決のためには、県民（住民やボランティア・NPO、企業等）が行う社会貢献活動と行政（県・市町）が協力・連携して取り組むことが必要になっていくと考えています。この考え方について、あなたは、どう思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,318]



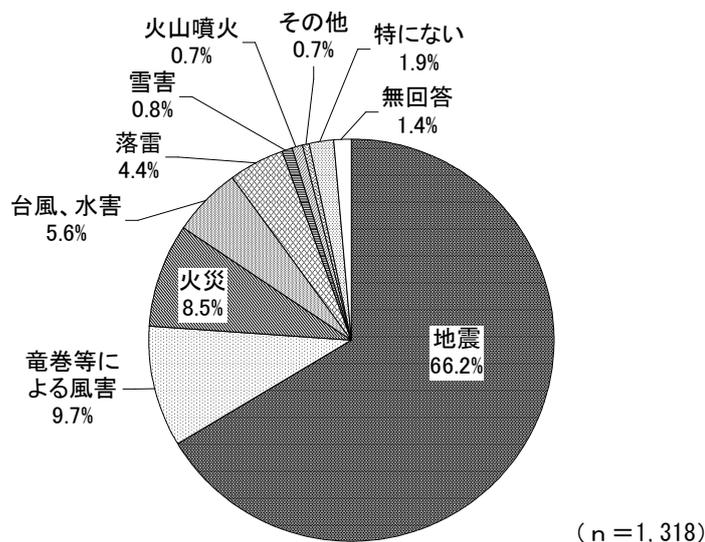
- ・全体でみると、「県民の参加・協力を得ながら、行政が中心になって取り組むべき」（36.9%）が4割近くで最も高く、次いで「県民と行政が対等な関係で、役割を分担して取り組むべき」（24.1%）、「行政の支援を得ながら、県民が中心になって取り組むべき」（17.1%）の順となっている。
- ・性別でみると、「県民と行政が対等な関係で、役割を分担して取り組むべき」では〈男性〉（27.6%）が〈女性〉（21.4%）より6.2ポイント高くなっている。「県民の参加・協力を得ながら、行政が中心になって取り組むべき」では〈女性〉（39.1%）が〈男性〉（35.2%）より3.9ポイント高くなっている。
- ・性／年齢別でみると、「県民の参加・協力を得ながら、行政が中心になって取り組むべき」では〈女性50歳代〉が46.2%、〈男性65～69歳〉が45.9%と高くなっている。「県民と行政が対等な関係で、役割を分担して取り組むべき」では〈男性20歳代〉が38.6%と高くなっている。

## 8 地域防災について

### (1) 日頃最も不安に思う災害

問23 あなたが、日頃最も不安に思う災害はどのようなものですか。  
次の中から1つ選んでください。

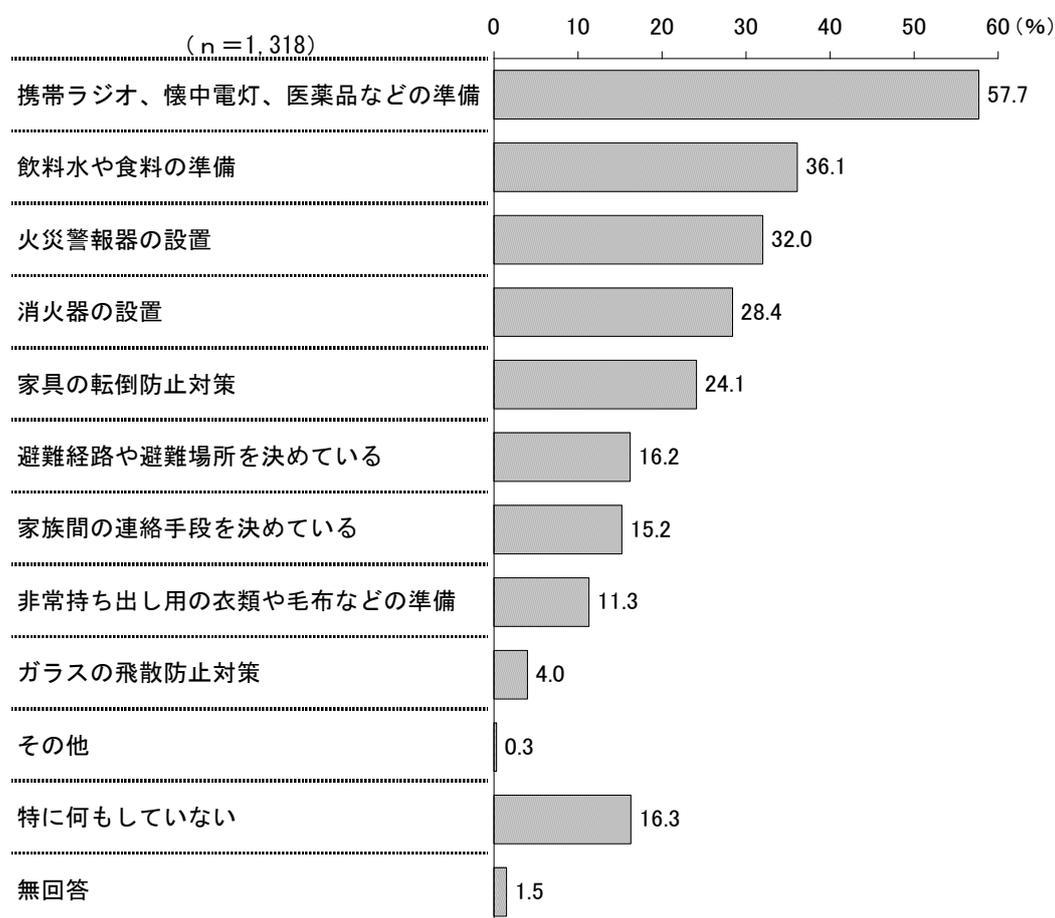
[n=1,318]



- ・全体で見ると、「地震」(66.2%)が6割半ばで最も高く、次いで「竜巻等による風害」(9.7%)、「火災」(8.5%)、「台風、水害」(5.6%)、「落雷」(4.4%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「地震」では〈女性〉(71.7%)が〈男性〉(60.9%)より10.8ポイント高くなっている。「火災」では〈男性〉(10.9%)が〈女性〉(6.6%)より4.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「地震」では〈女性20歳代〉が77.3%と高くなっている。「火災」では〈男性70歳以上〉が17.5%、〈男性20歳代〉が13.6%と高くなっている。「台風、水害」では〈男性65～69歳〉が15.3%と高くなっている。「竜巻等による風害」では〈男性65～69歳〉が15.3%、〈男性30歳代〉が14.3%と高くなっている。

## (2) 地震に対する備え

問24 あなたの家庭では、地震に対してどのような備えをしていますか。次の中からいくつかでも選んでください。 [n=1,318]

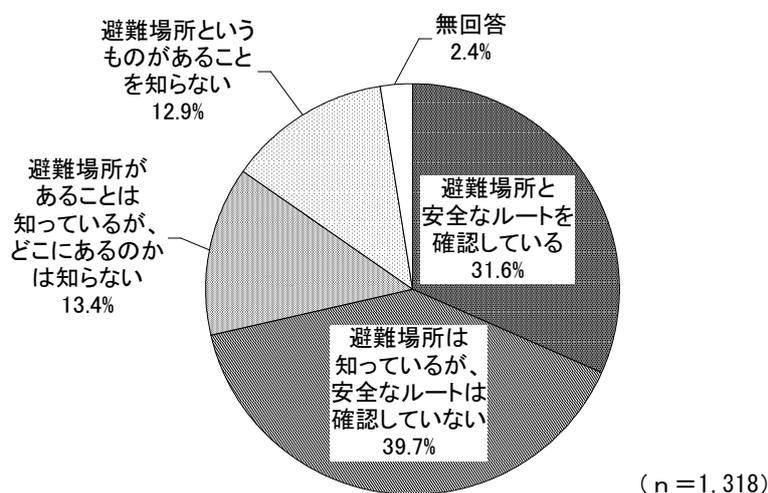


- ・全体でみると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」(57.7%)が6割近くで最も高く、次いで「飲料水や食料の準備」(36.1%)、「火災警報器の設置」(32.0%)、「消火器の設置」(28.4%)、「家具の転倒防止対策」(24.1%)の順となっている。
- ・性別でみると、「飲料水や食料の準備」では〈女性〉(39.6%)が〈男性〉(32.8%)より6.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」では〈男性70歳以上〉が70.6%と高く、「火災警報器の設置」でも〈男性70歳以上〉が40.5%と高くなっている。「消火器の設置」では〈男性60～64歳〉が42.3%と高くなっている。「避難経路や避難場所を決めている」では〈男性70歳以上〉が25.4%と高くなっている。「特に何もしていない」では〈男性20歳代〉が38.6%と高くなっている。

### (3) 地域の指定避難場所等の認知度

問25 あなたは、お住まいの地域の指定避難場所等についてどの程度知っていますか。  
次の中から1つ選んでください。

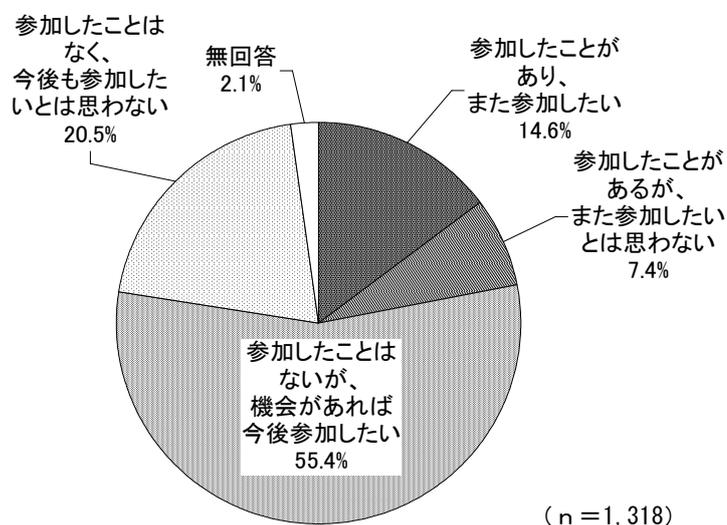
[n = 1,318]



- ・全体でみると、「避難場所と安全なルートを確認している」(31.6%)が3割を超えている。「避難場所は知っているが、安全なルートは確認していない」(39.7%)は4割で、「避難場所があることは知っているが、どこにあるのかは知らない」(13.4%)と「避難場所というものがあることを知らない」(12.9%)はともに1割を超えている。
- ・性別でみると、「避難場所と安全なルートを確認している」では〈男性〉(35.2%)が〈女性〉(29.5%)より5.7ポイント高くなっている。「避難場所は知っているが、安全なルートは確認していない」では〈女性〉(43.2%)が〈男性〉(36.0%)より7.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「避難場所と安全なルートを確認している」では〈男性70歳以上〉が44.4%、〈男性60～64歳〉が41.0%と高くなっている。「避難場所というものがあることを知らない」では〈男性20歳代〉が29.5%と高くなっている。

#### (4) 防災訓練の参加状況

問26 あなたは、県や市町、自治会等が行っている防災訓練に参加したことがありますか。  
次の中から1つ選んでください。 [n = 1,318]



- ・全体で見ると、「参加したことがあり、また参加したい」（14.6%）が1割半ばで、「参加したことがあるが、また参加したいとは思わない」（7.4%）が1割近くとなっている。「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」（55.4%）は5割半ばで、「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」（20.5%）はほぼ2割となっている。
- ・性別で見ると、「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」では〈女性〉（58.9%）が〈男性〉（51.5%）より7.4ポイント高くなっている。「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」では〈男性〉（23.2%）が〈女性〉（17.9%）より5.3ポイント高くなっている。
- ・性／年齢別で見ると、「参加したことがあり、また参加したい」では〈女性65～69歳〉が24.4%と高くなっている。「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」では〈男性20歳代〉が50.0%、〈女性20歳代〉が38.6%と高くなっている。

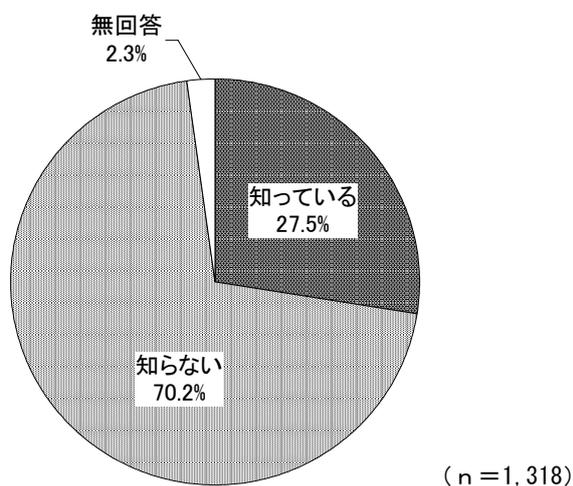
## (5) 自主防災組織の認知度

問27 あなたは、自主防災組織（※）について知っていますか。

次の中から1つ選んでください。

[n=1,318]

※ 「自主防災組織」とは、自治会・町内会などを母体とした、地域住民が防災活動をする組織のことです。



- ・全体で見ると、「知っている」(27.5%)が3割近くで、「知らない」(70.2%)が7割となっている。
- ・性別で見ると、「知っている」では〈男性〉(31.2%)が〈女性〉(25.1%)より6.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「知っている」では〈男性70歳以上〉が46.8%と高くなっている。「知らない」では〈女性20歳代〉が95.5%、〈男性20歳代〉が88.6%と高くなっている。

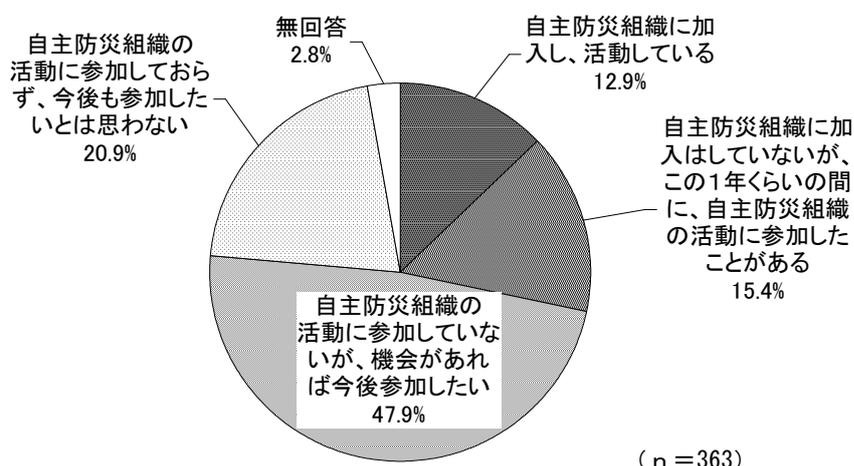
## (5-1) 自主防災組織の活動への参加状況

(問27で選択肢「知っている」を選んだ方のみお答えください)

問27-1 あなたは、自主防災組織の活動に参加していますか。

次の中から1つ選んでください。

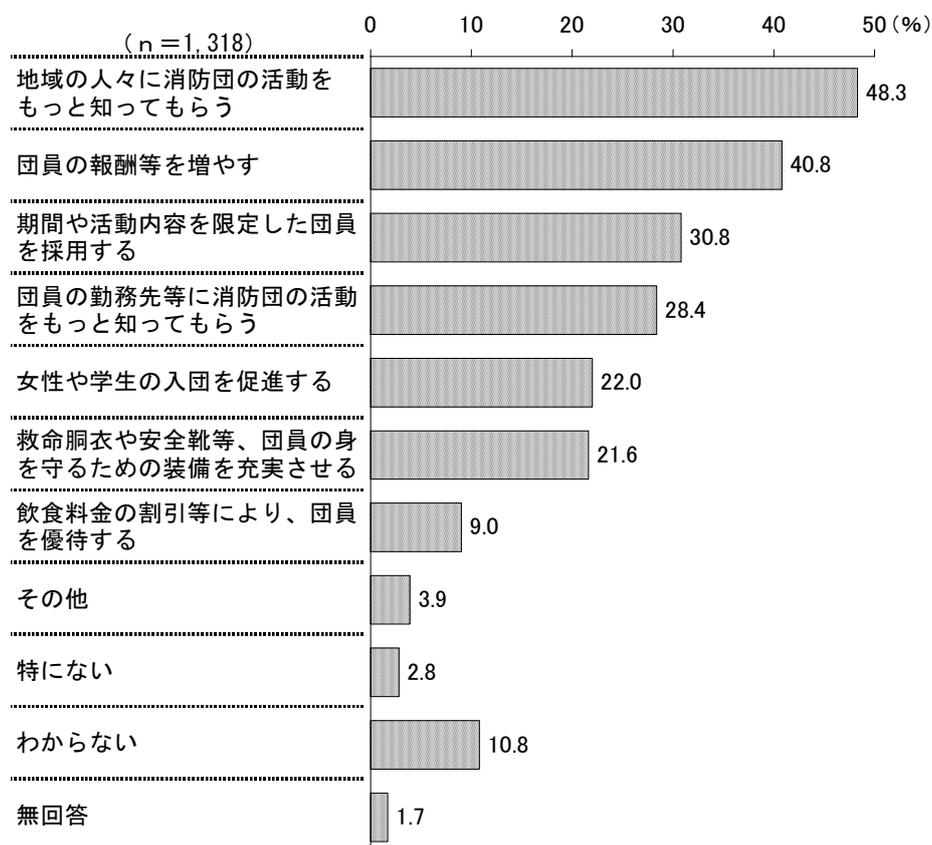
[n = 363]



- ・全体でみると、「自主防災組織に加入し、活動している」(12.9%)が1割を超え、「自主防災組織に加入はしていないが、この1年くらいの間に、自主防災組織の活動に参加したことがある」(15.4%)が1割半ばとなっている。「自主防災組織の活動に参加していないが、機会があれば今後参加したい」(47.9%)は5割近くで、「自主防災組織の活動に参加しておらず、今後も参加したいとは思わない」(20.9%)はほぼ2割となっている。
- ・性別でみると、「自主防災組織に加入し、活動している」では〈男性〉(19.1%)が〈女性〉(6.4%)より12.7ポイント高くなっている。「自主防災組織の活動に参加しておらず、今後も参加したいとは思わない」では〈女性〉(25.1%)が〈男性〉(16.9%)より8.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「自主防災組織に加入し、活動している」では〈男性50歳代〉が31.0%、〈男性30歳代〉が30.8%と高くなっている。「自主防災組織に加入はしていないが、この1年くらいの間に、自主防災組織の活動に参加したことがある」では〈男性70歳以上〉が23.7%、〈女性50歳代〉が22.9%と高くなっている。

## (6) 消防団員を増やすための取組

問28 消防団員数が年々減少していますが、あなたは、団員を増やすためにはどのような取組が有効だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,318]



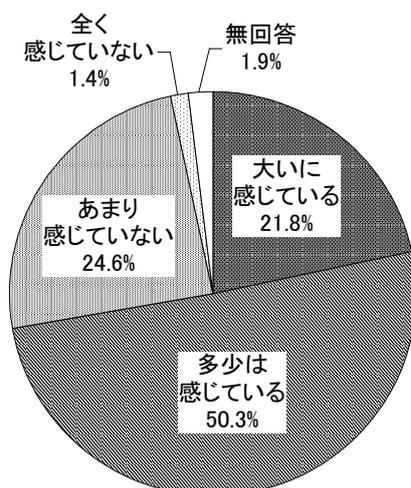
- ・全体でみると、「地域の人々に消防団の活動をもっと知ってもらう」（48.3%）が5割近くで最も高く、次いで「団員の報酬等を増やす」（40.8%）、「期間や活動内容を限定した団員を採用する」（30.8%）、「団員の勤務先等に消防団の活動をもっと知ってもらう」（28.4%）の順となっている。
- ・性別でみると、「団員の報酬等を増やす」では〈男性〉（46.4%）が〈女性〉（37.2%）より9.2ポイント高く、「女性や学生の入団を促進する」では〈男性〉（26.8%）が〈女性〉（17.8%）より9.0ポイント高くなっている。「地域の人々に消防団の活動をもっと知ってもらう」では〈女性〉（52.6%）が〈男性〉（44.4%）より8.2ポイント高く、「救命胴衣や安全靴等、団員の身を守るための装備を充実させる」では〈女性〉（25.7%）が〈男性〉（17.7%）より8.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「地域の人々に消防団の活動をもっと知ってもらう」では〈女性50歳代〉が60.7%と高くなっている。「団員の報酬等を増やす」では〈男性30歳代〉が57.1%と高く、「団員の勤務先等に消防団の活動をもっと知ってもらう」では〈男性60～64歳〉が44.9%と高くなっている。

## 9 食の安全・安心について

### (1) 食品の安全性に対する不安

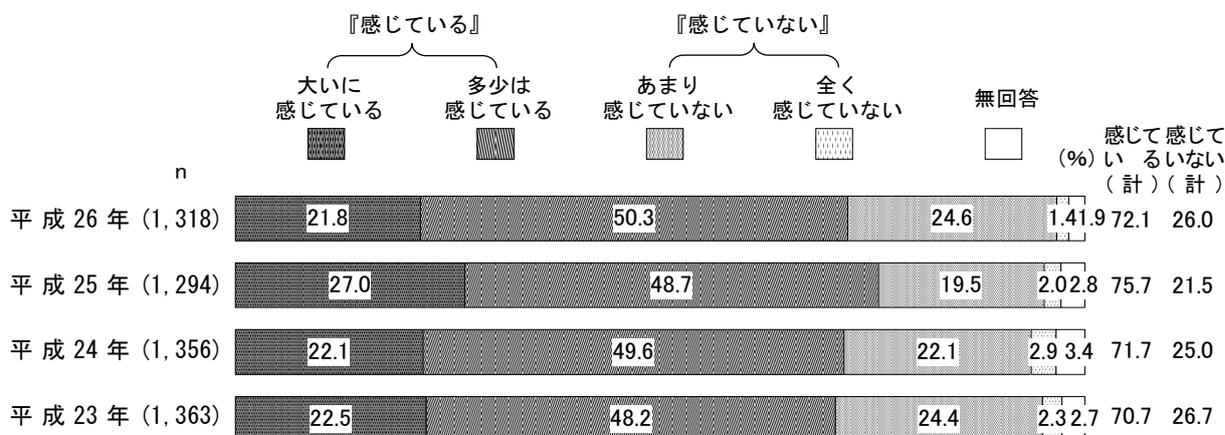
問29 あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。  
次の中から1つ選んでください。

[n=1,318]



(n=1,318)

- ・全体で見ると、「大いに感じている」(21.8%)と「多少は感じている」(50.3%)の2つを合わせた『感じている』(72.1%)が7割を超えている。一方、「あまり感じていない」(24.6%)と「全く感じていない」(1.4%)の2つを合わせた『感じていない』(26.0%)は2割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、『感じている』では〈女性〉(78.4%)が〈男性〉(66.5%)より11.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『感じている』では〈女性の30歳代から50歳代〉でいずれも8割台と高くなっている。



- ・過去の調査結果と比較すると、『感じている』が前回(平成25年)と比べて3.6ポイント減少している。

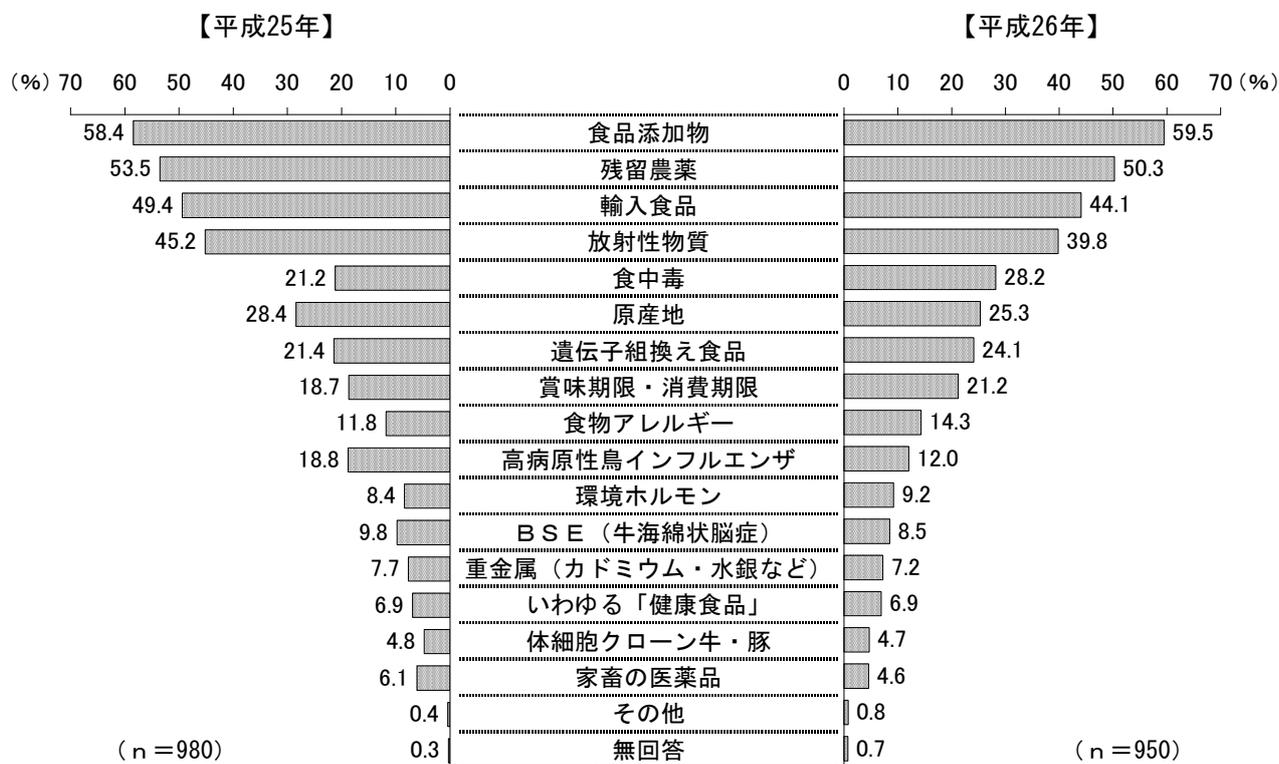
(1-1) 食品の安全性について不安に思うもの

(問29で「大いに感じている」、「多少は感じている」を選んだ方のみお答えください)

問29-1 あなたは、食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。

次の中から4つまで選んでください。

[n=950]



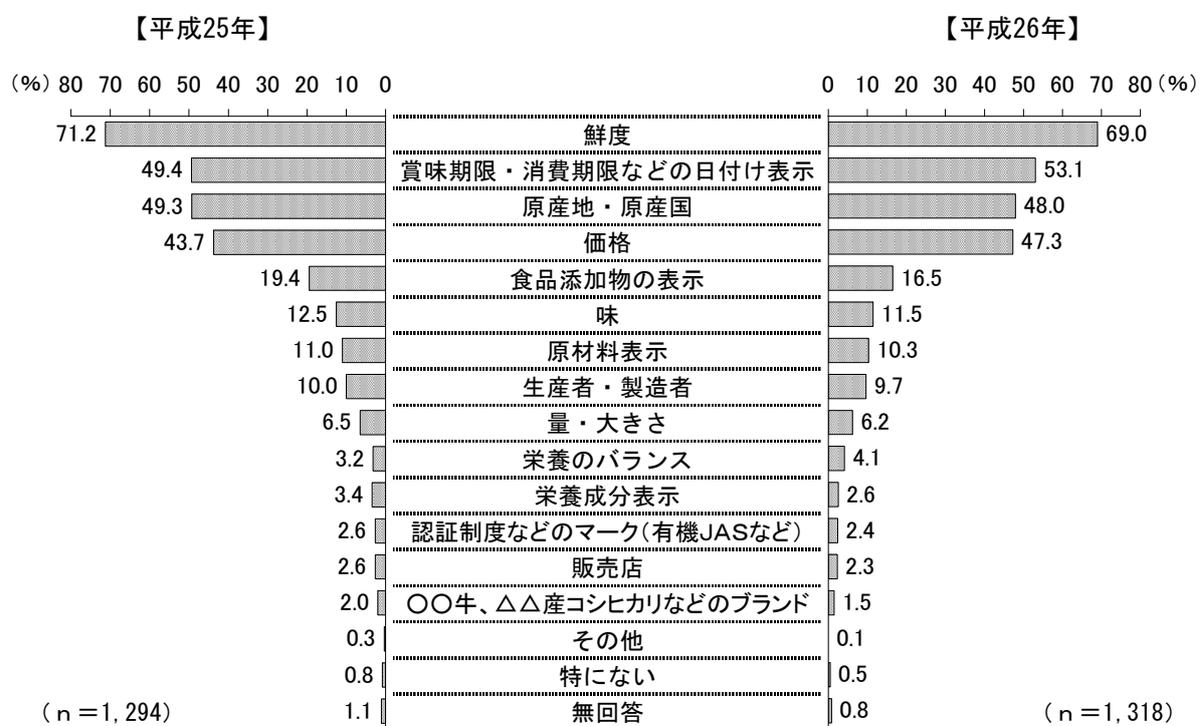
- ・全体で見ると、「食品添加物」(59.5%)が6割で最も高く、次いで「残留農薬」(50.3%)、「輸入食品」(44.1%)、「放射性物質」(39.8%)、「食中毒」(28.2%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「放射性物質」では〈女性〉(43.1%)が〈男性〉(35.1%)より8.0ポイント高く、「食品添加物」では〈女性〉(62.5%)が〈男性〉(55.6%)より6.9ポイント高くなっている。「食中毒」では〈男性〉(31.5%)が〈女性〉(26.2%)より5.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「食品添加物」では〈女性60~64歳〉が80.0%と高くなっている。「残留農薬」では〈男性70歳以上〉が63.1%と高くなっている。「放射性物質」では〈女性20歳代〉が63.3%、〈女性30歳代〉が60.8%と高くなっている。「食中毒」では〈女性20歳代〉が46.7%と高くなっている。
- ・前回(平成25年)の調査結果と比較すると、「食中毒」が7.0ポイント増加している。一方、「高病原性鳥インフルエンザ」が6.8ポイント、「放射性物質」が5.4ポイント、「輸入食品」が5.3ポイント、それぞれ減少している。

## (2) 食品を購入するときに気を付けること

問30 あなたが食品を購入するときに気を付けることは何ですか。

次の中から3つまで選んでください。

[n=1,318]

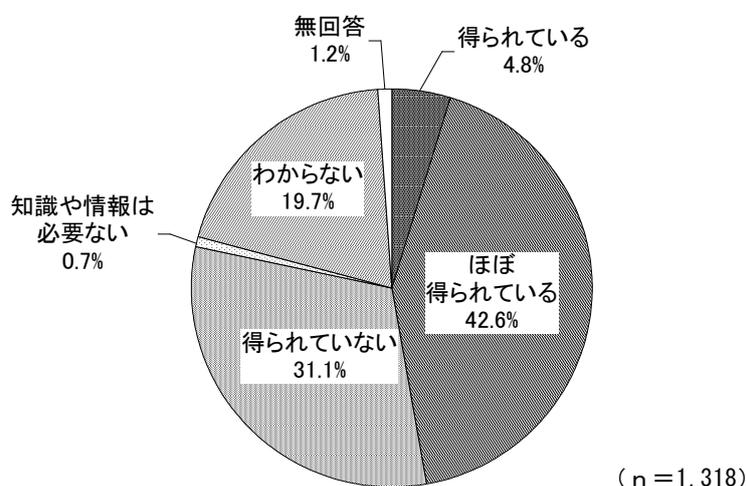


- ・全体で見ると、「鮮度」(69.0%)がほぼ7割で最も高く、次いで「賞味期限・消費期限などの日付け表示」(53.1%)、「原産地・原産国」(48.0%)、「価格」(47.3%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「食品添加物の表示」では〈女性〉(20.7%)が〈男性〉(11.8%)より8.9ポイント高くなっている。「鮮度」では〈女性〉(72.4%)が〈男性〉(65.4%)より7.0ポイント高く、「原産地・原産国」では〈女性〉(51.4%)が〈男性〉(45.2%)より6.2ポイント高くなっている。「味」では〈男性〉(16.4%)が〈女性〉(7.2%)より9.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「鮮度」では〈女性70歳以上〉が82.3%と高くなっている。「原産地・原産国」では〈女性30歳代〉が63.3%と高くなっている。「価格」では〈女性20歳代〉が68.2%、〈男性30歳代〉が63.5%と高くなっている。
- ・前回(平成25年)の調査結果と比較すると、「賞味期限・消費期限などの日付け表示」が3.7ポイント増加し、「価格」が3.6ポイント増加している。

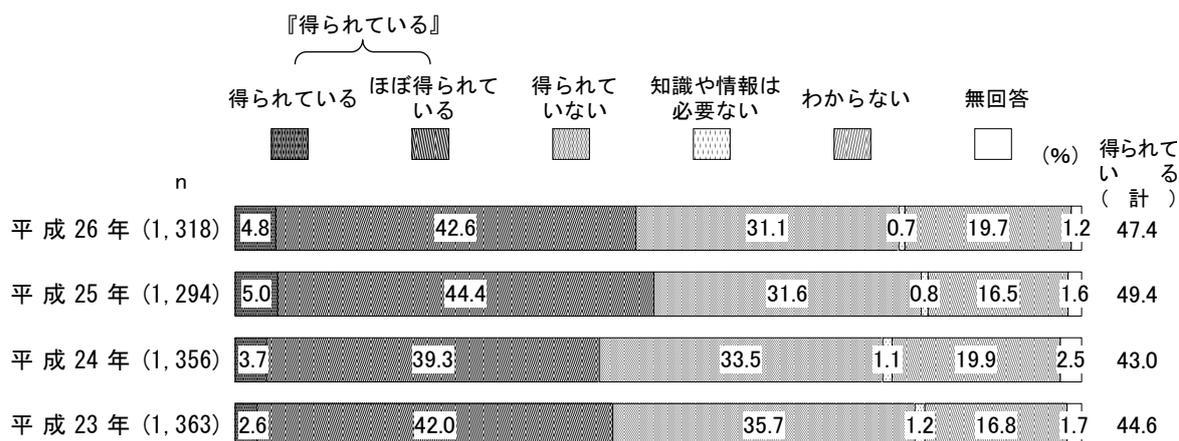
### (3) 食の安全に関する知識や情報の取得

問31 あなたは、食の安全に関する正しい知識や情報を得られていると思いますか。  
次の中から1つ選んでください。

[n = 1,318]



- ・全体で見ると、「得られている」(4.8%)と「ほぼ得られている」(42.6%)の2つを合わせた『得られている』(47.4%)は5割近くとなっている。一方、「得られていない」(31.1%)は3割を超えている。
- ・性別で見ると、男女間で大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、『得られている』では〈女性70歳以上〉が61.7%、〈男性70歳以上〉が61.1%と高くなっている。「得られていない」では〈男性40歳代〉が40.2%、〈女性30歳代〉が39.8%と高くなっている。

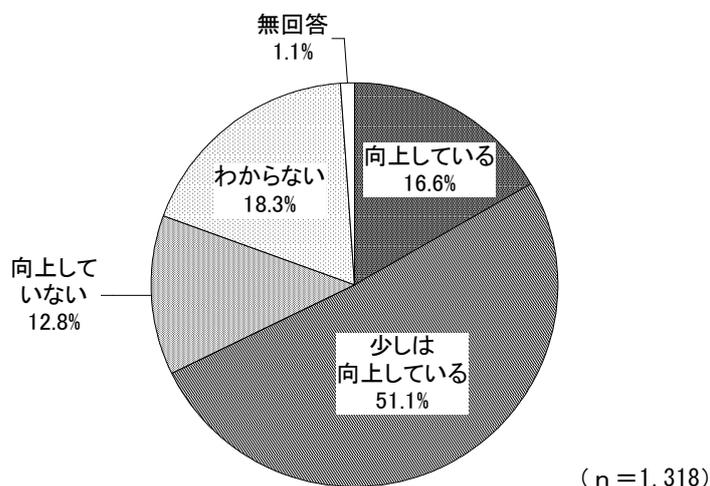


- ・過去の調査結果と比較すると、『得られている』が前回(平成25年)と比べて2.0ポイント減少している。

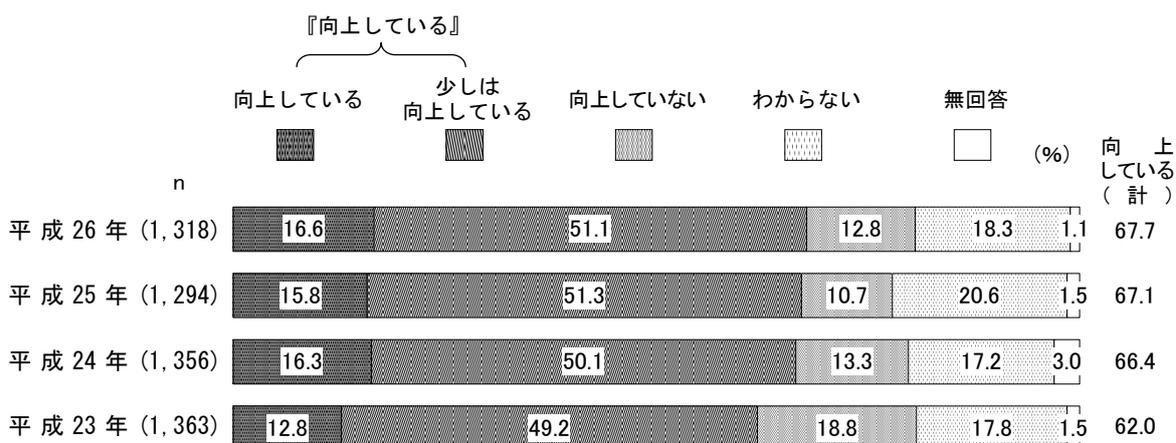
#### (4) 食品の安全性の向上

問32 食品の安全性は向上していると思いますか。次の中から1つ選んでください。

[ n = 1, 318 ]



- ・全体でみると、「向上している」(16.6%)と「少しは向上している」(51.1%)の2つを合わせた『向上している』(67.7%)が7割近くとなっている。一方、「向上していない」(12.8%)は1割を超えている。
- ・性別でみると、『向上している』では〈男性〉(71.3%)が〈女性〉(64.6%)より6.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、『向上している』では〈男性65～69歳〉で85.8%、〈男性70歳以上〉で84.2%と高くなっている。



- ・過去の調査結果と比較すると、『向上している』の割合は平成24年以降ほぼ同じ割合となっている。

## 10 生涯学習について

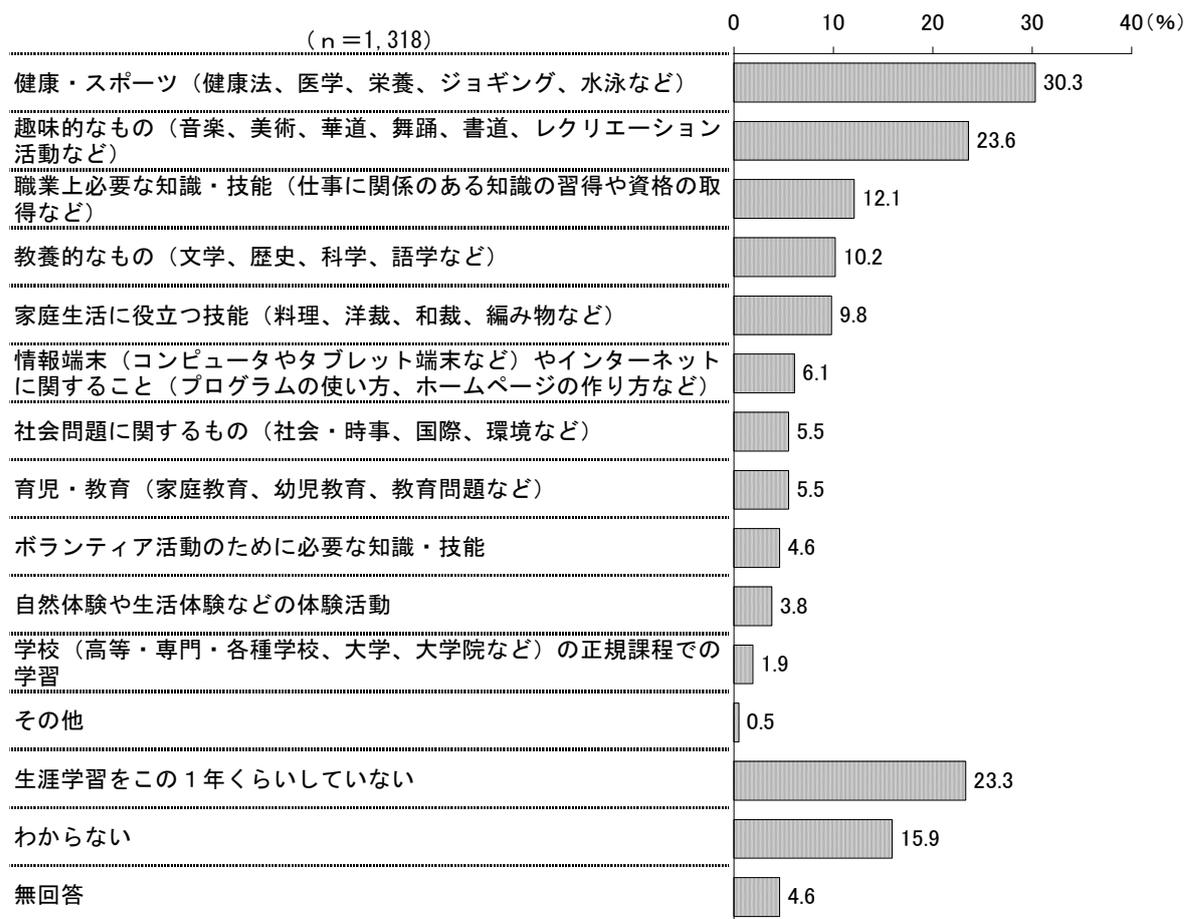
### (1) 最近1年間に行った生涯学習の種類

問33 あなたは、この1年くらいの間に、生涯学習をしたことがありますか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,318]

※ 「生涯学習」とは、人々が、生涯のいつでも、どこでも、自由に行う学習活動のことで、学校教育や、公民館における講座等の社会教育などの学習機会に限らず、自分から進んで行う学習やスポーツ、文化活動、趣味、ボランティア活動などにおけるさまざまな学習活動のことをいいます。

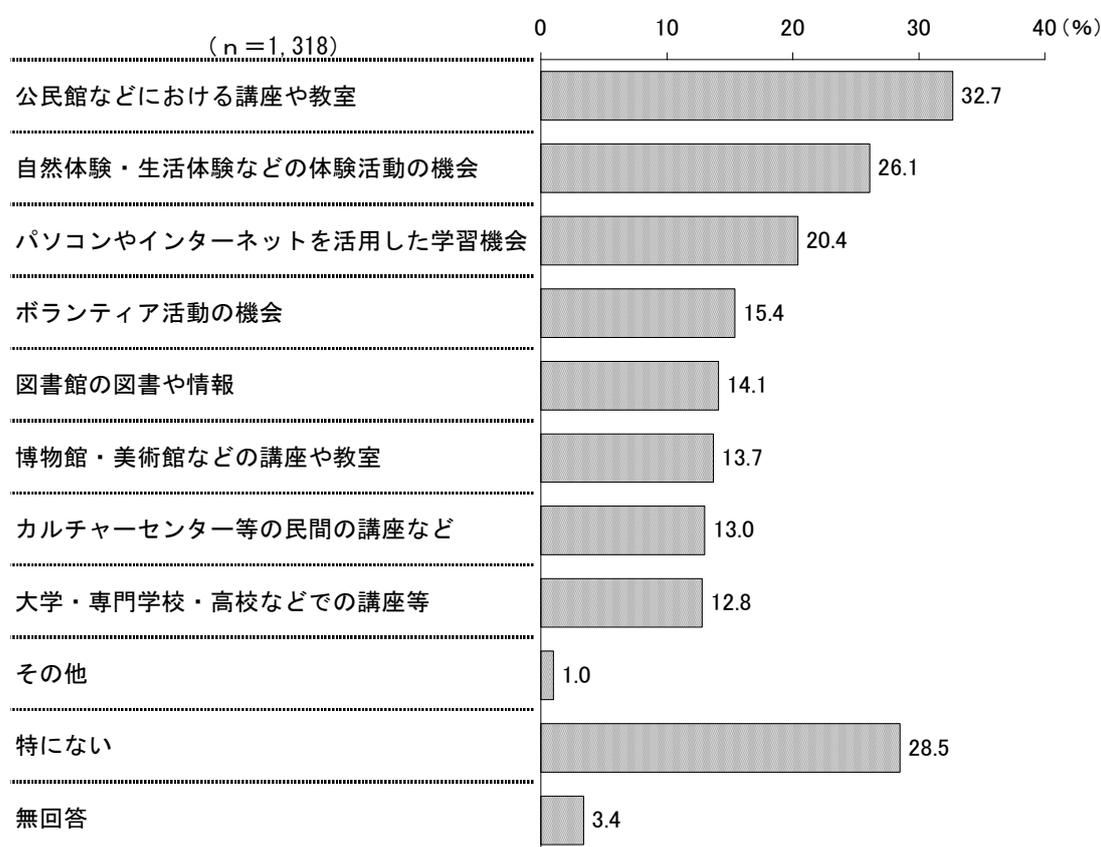


- ・全体で見ると、「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」（30.3%）が3割で最も高く、次いで「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」（23.6%）、「職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）」（12.1%）、「教養的なもの（文学、歴史、科学、語学など）」（10.2%）の順となっている。
- ・性別で見ると、「家庭生活に役立つ技能」では〈女性〉（14.0%）が〈男性〉（5.3%）より8.7ポイント高くなっている。「社会問題に関するもの」では〈男性〉（8.5%）が〈女性〉（2.9%）より5.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「健康・スポーツ」では〈男性65～69歳〉が42.4%、〈女性65～69歳〉が40.7%と高くなっている。「趣味的なもの」では〈女性70歳以上〉が35.5%、〈男性65～69歳〉が34.1%と高くなっている。「職業上必要な知識・技能」では〈男性30歳代〉が28.6%と高くなっている。「育児・教育」では〈女性30歳代〉が20.4%と高くなっている。

## (2) 生涯学習を行う機会として増えたほうがよいと思うもの

問34 あなたは、どのような生涯学習の機会が増えればよいと思いますか。  
次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1,318]

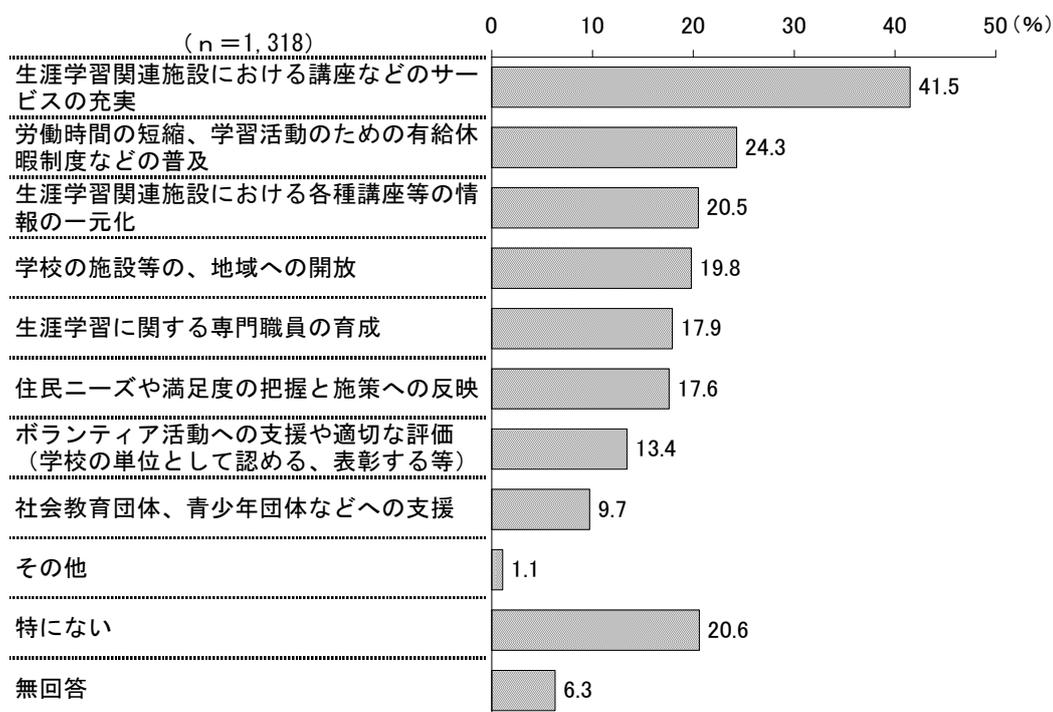


- ・全体でみると、「公民館などにおける講座や教室」(32.7%)が3割を超えて最も高く、次いで「自然体験・生活体験などの体験活動の機会」(26.1%)、「パソコンやインターネットを活用した学習機会」(20.4%)、「ボランティア活動の機会」(15.4%)、「図書館の図書や情報」(14.1%)の順となっている。
- ・性別でみると、「公民館などにおける講座や教室」では〈女性〉(37.6%)が〈男性〉(27.6%)より10.0ポイント高く、「カルチャーセンター等の民間の講座など」では〈女性〉(15.4%)が〈男性〉(10.8%)より4.6ポイント高くなっている。「パソコンやインターネットを活用した学習機会」では〈男性〉(22.9%)が〈女性〉(18.6%)より4.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「公民館などにおける講座や教室」では〈女性60～64歳〉が48.5%と高くなっている。「自然体験・生活体験などの体験活動の機会」では〈女性30歳代〉が38.8%と高く、「パソコンやインターネットを活用した学習機会」では〈男性65～69歳〉が35.3%と高くなっている。

### (3) 生涯学習活動を盛んにしていくための行政の取組

問35 今後、人々の生涯学習活動をもっと盛んにしていくために、あなたは、行政がどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。

[ n = 1, 318 ]



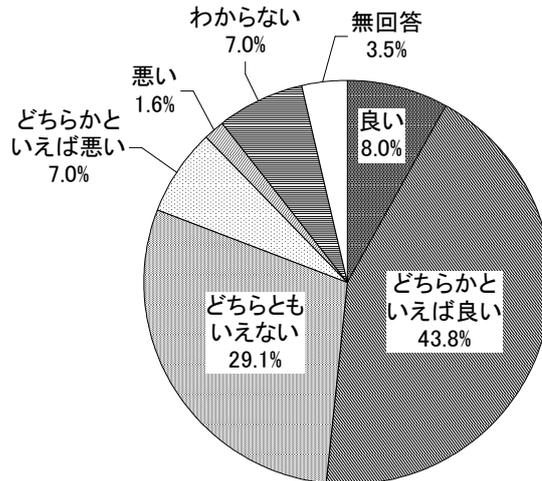
- ・全体で見ると、「生涯学習関連施設における講座などのサービスの充実」(41.5%)が4割を超えて最も高く、次いで「労働時間の短縮、学習活動のための有給休暇制度などの普及」(24.3%)、「生涯学習関連施設における各種講座等の情報の一元化」(20.5%)、「学校の施設等の、地域への開放」(19.8%)、「生涯学習に関する専門職員の育成」(17.9%)の順となっている。
- ・性別で見ると、性別による大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「生涯学習関連施設における講座などのサービスの充実」では〈女性60～64歳〉が51.5%と高くなっている。「労働時間の短縮、学習活動のための有給休暇制度などの普及」では男女ともおおむね低い年代ほど割合が高くなっている。「生涯学習関連施設における各種講座等の情報の一元化」では〈女性65～69歳〉が32.6%と高くなっている。

# 11 犯罪と治安対策について

## (1) 県内の治安状況

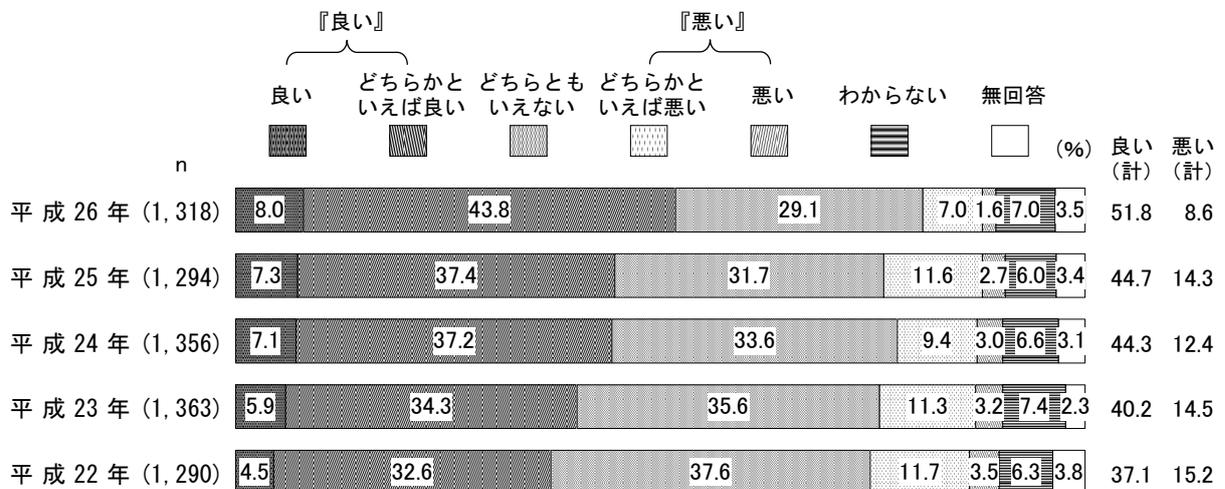
問36 あなたは、県内の治安についてどう感じますか。次の中から1つ選んでください。

[ n = 1,318 ]



( n = 1,318 )

- ・全体で見ると、「良い」(8.0%)と「どちらかといえば良い」(43.8%)の2つを合わせた『良い』(51.8%)が5割を超えている。一方、「どちらかといえば悪い」(7.0%)と「悪い」(1.6%)の2つを合わせた『悪い』(8.6%)は1割近くとなっている。また、「どちらともいえない」(29.1%)はほぼ3割となっている。
- ・性別で見ると、『良い』では〈男性〉(53.6%)が〈女性〉(50.3%)より3.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『良い』では〈男性65~69歳〉が63.5%、〈女性50歳代〉が61.5%と高くなっている。

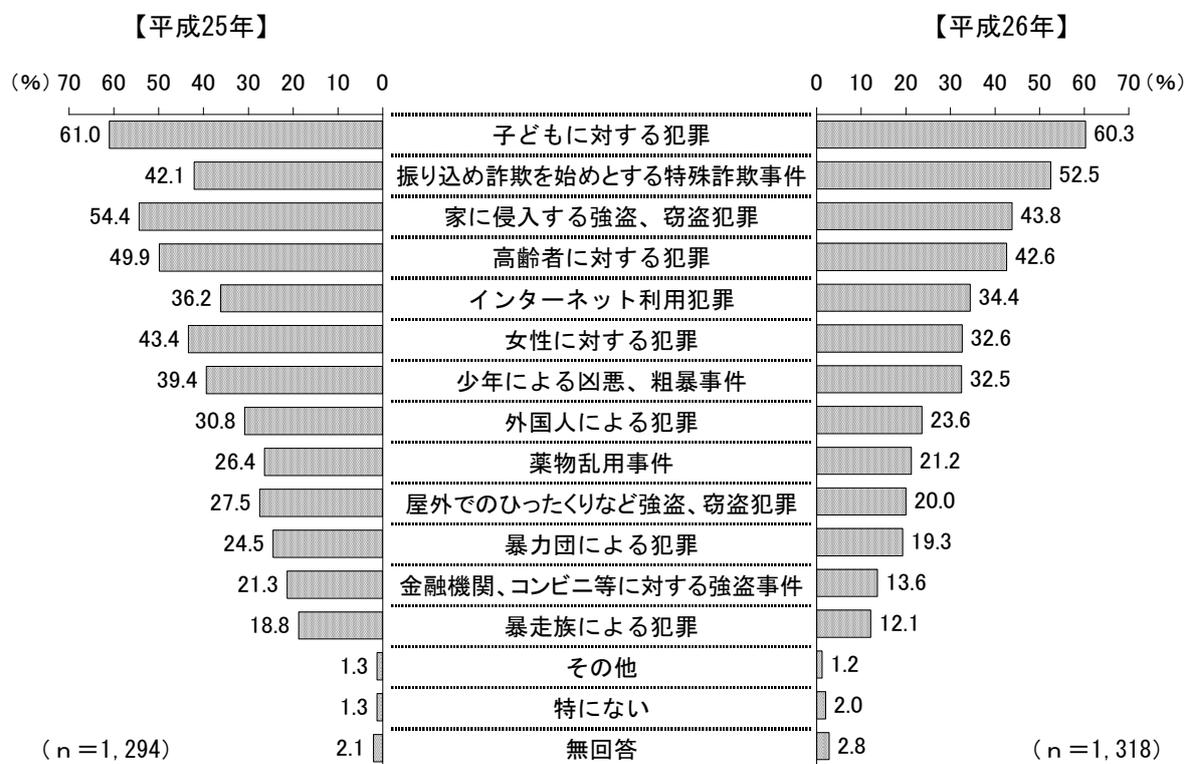


- ・過去の調査結果と比較すると、『良い』が増加傾向にあり、前回(平成25年)と比べて7.1ポイント増加している。一方、『悪い』は前回(平成25年)と比べて5.7ポイント減少している。

## (2) 不安を感じる犯罪

問37 あなたは、どのような犯罪に不安を感じますか。次の中からいくつか選んでください。

[ n = 1, 318 ]



※平成25年調査では、「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」は「振り込め詐欺事件」としていた。

- ・全体で見ると、「子どもに対する犯罪」（60.3%）が6割で最も高く、次いで「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」（52.5%）、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」（43.8%）、「高齢者に対する犯罪」（42.6%）、「インターネット利用犯罪」（34.4%）の順となっている。
- ・性別で見ると、「子どもに対する犯罪」では〈女性〉（66.2%）が〈男性〉（54.3%）より11.9ポイント高くなっている。「女性に対する犯罪」では〈女性〉（38.0%）が〈男性〉（26.1%）より11.9ポイント高く、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」では〈女性〉（48.8%）が〈男性〉（38.4%）より10.4ポイント高くなっている。
- ・性／年齢別で見ると、「子どもに対する犯罪」では〈女性30歳代〉が88.8%、〈女性40歳代〉が84.3%と高くなっている。「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」では〈男性70歳以上〉が68.3%、〈女性70歳以上〉が66.7%と高くなっている。「高齢者に対する犯罪」では〈男性65～69歳〉が60.0%と高くなっている。「女性に対する犯罪」では〈女性20歳代〉が61.4%と高くなっている。
- ・前回（平成25年）の調査結果と比較すると、「振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺事件」が10.4ポイント増加している。一方、「女性に対する犯罪」が10.8ポイント、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」が10.6ポイント、「金融機関、コンビニ等に対する強盗事件」が7.7ポイント、「屋外でのひったくりなど強盗、窃盗犯罪」が7.5ポイント、「高齢者に対する犯罪」が7.3ポイント、「外国人による犯罪」が7.2ポイント、「少年による凶悪、粗暴事件」が6.9ポイント、それぞれ減少している。

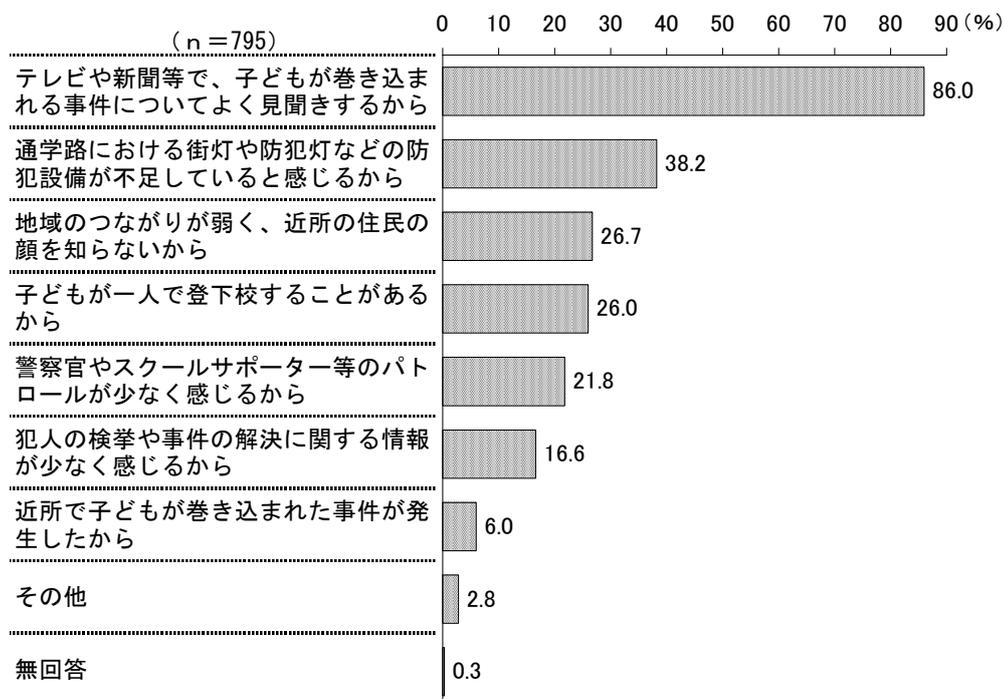
## (2-1) 子どもに対する犯罪に不安を感じる理由

(問37で選択肢「子どもに対する犯罪」を選んだ方のみお答えください)

問37-1 あなたが、子どもに対する犯罪に不安を感じる理由は何ですか。

次の中からいくつでも選んでください。

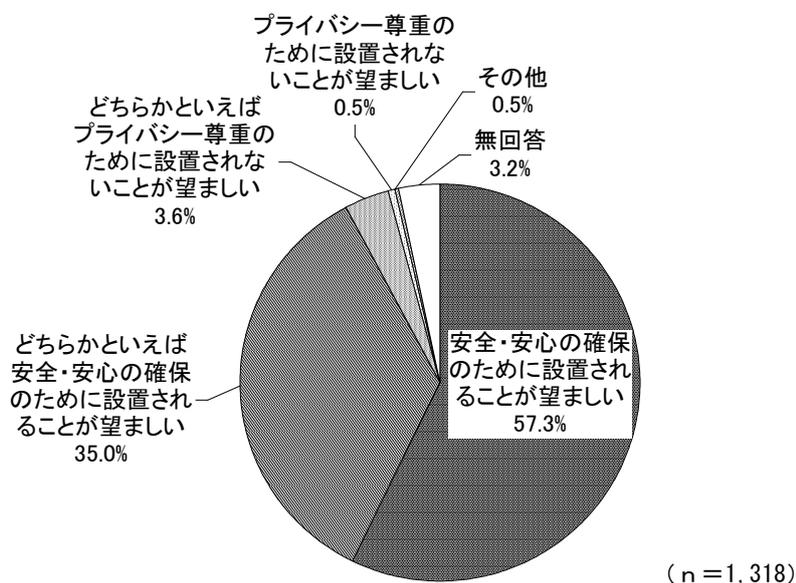
[n=795]



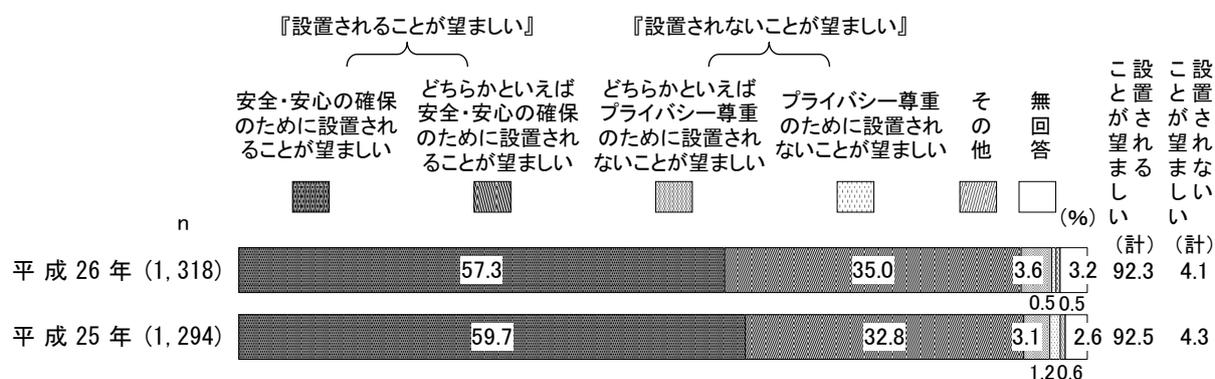
- ・全体でみると、「テレビや新聞等で、子どもが巻き込まれる事件についてよく見聞きするから」(86.0%)が8割半ばで最も高く、次いで「通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから」(38.2%)、「地域のつながりが弱く、近所の住民の顔を知らないから」(26.7%)、「子どもが一人で登下校することがあるから」(26.0%)の順となっている。
- ・性別でみると、「地域のつながりが弱く、近所の住民の顔を知らないから」では〈男性〉(33.6%)が〈女性〉(22.2%)より11.4ポイント高く、「警察官やスクールサポーター等のパトロールが少なく感じるから」では〈男性〉(25.2%)が〈女性〉(19.3%)より5.9ポイント高くなっている。「通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから」では〈女性〉(40.6%)が〈男性〉(34.9%)より5.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「通学路における街灯や防犯灯などの防犯設備が不足していると感じるから」では〈女性60～64歳〉が50.0%と高く、「地域のつながりが弱く、近所の住民の顔を知らないから」では〈男性70歳以上〉が47.7%と高くなっている。

### (3) 公共空間における防犯カメラの設置について

問38 あなたは、公共空間における防犯カメラの設置についてどのように思いますか。  
次の中から1つ選んでください。 [n = 1,318]



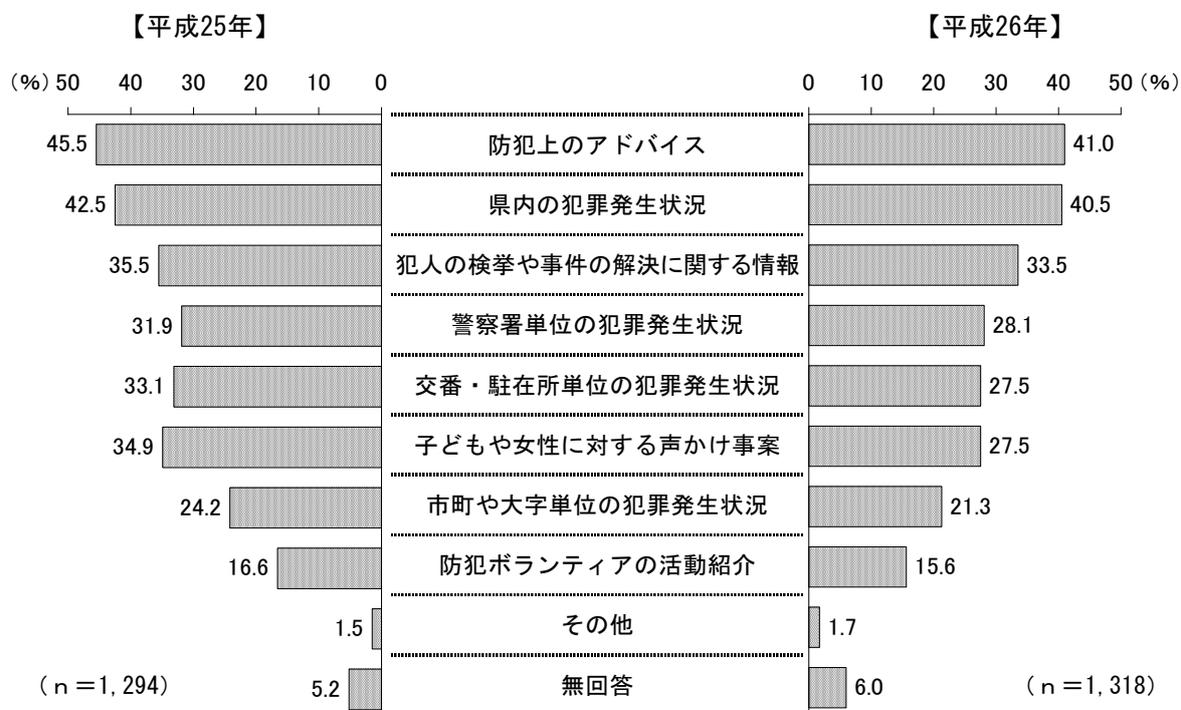
- ・全体でみると、「安全・安心の確保のために設置されることが望ましい」(57.3%)が6割近く、「どちらかといえば安全・安心の確保のために設置されることが望ましい」(35.0%)が3割半ばで、この2つを合わせた『設置されることが望ましい』(92.3%)が9割を超えている。「どちらかといえばプライバシー尊重のために設置されることが望ましい」(3.6%)と「プライバシー尊重のために設置されることが望ましい」(0.5%)の2つを合わせた『設置されることが望まない』(4.1%)は1割に満たない。
- ・性別でみると、『設置されることが望ましい』では〈女性〉(93.6%)が〈男性〉(91.5%)より2.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、『設置されることが望ましい』では〈男性の20歳代から40歳代〉と〈男性65～69歳〉が8割台となっており、それ以外のすべての年代は9割台と高くなっている。



- ・前回(平成25年)の調査結果と比較すると、ほぼ同じ傾向となっている。

#### (4) 犯罪の発生や防犯に関する情報で知りたいこと

問39 犯罪の発生や防犯に関して、あなたは、警察からどのような内容の情報提供を望みますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n = 1,318]

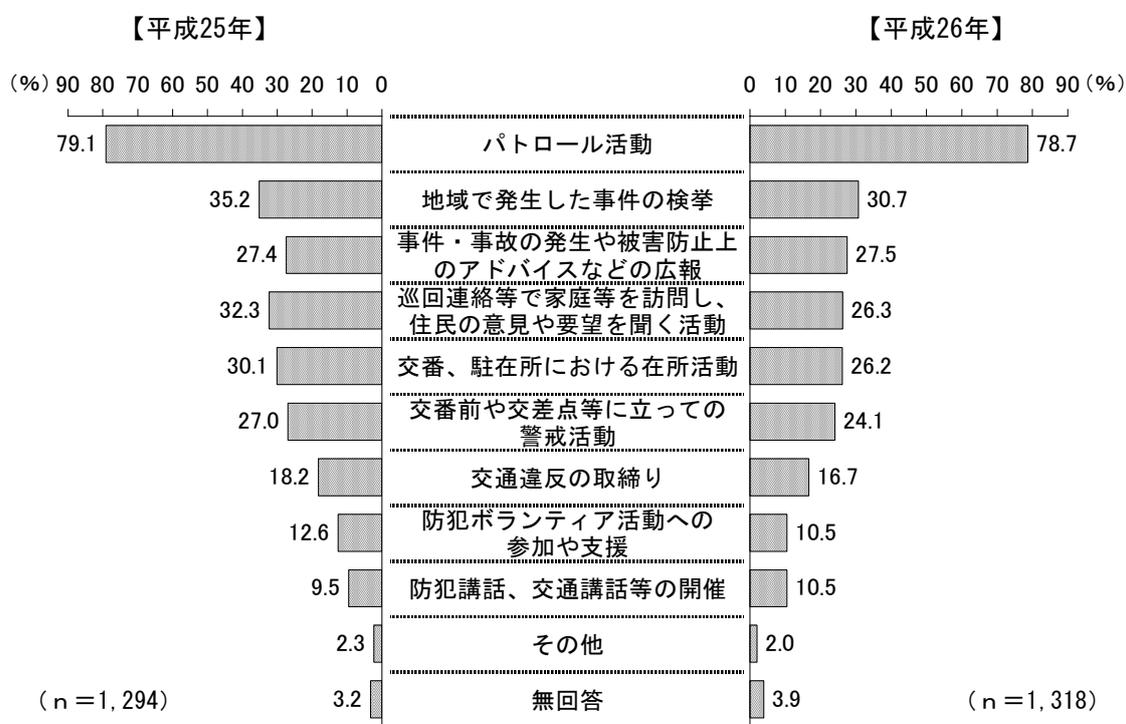


- ・全体で見ると、「防犯上のアドバイス」（41.0%）が4割を超えて最も高く、次いで「県内の犯罪発生状況」（40.5%）、「犯人の検挙や事件の解決に関する情報」（33.5%）、「警察署単位の犯罪発生状況」（28.1%）、「交番・駐在所単位の犯罪発生状況」（27.5%）、「子どもや女性に対する声かけ事案」（27.5%）の順となっている。
- ・性別で見ると、「子どもや女性に対する声かけ事案」では〈女性〉（32.7%）が〈男性〉（21.7%）より11.0ポイント高くなっている。
- ・性／年齢別で見ると、「防犯上のアドバイス」では〈女性30歳代〉が54.1%、〈男性20歳代〉が52.3%と高くなっている。「子どもや女性に対する声かけ事案」では〈女性30歳代〉が48.0%と高くなっている。
- ・前回（平成25年）の調査結果と比較すると、「子どもや女性に対する声かけ事案」が7.4ポイント減少し、「交番・駐在所単位の犯罪発生状況」が5.6ポイント減少している。

(5) 交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動

問40 あなたが、交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動は何ですか。  
次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1,318]



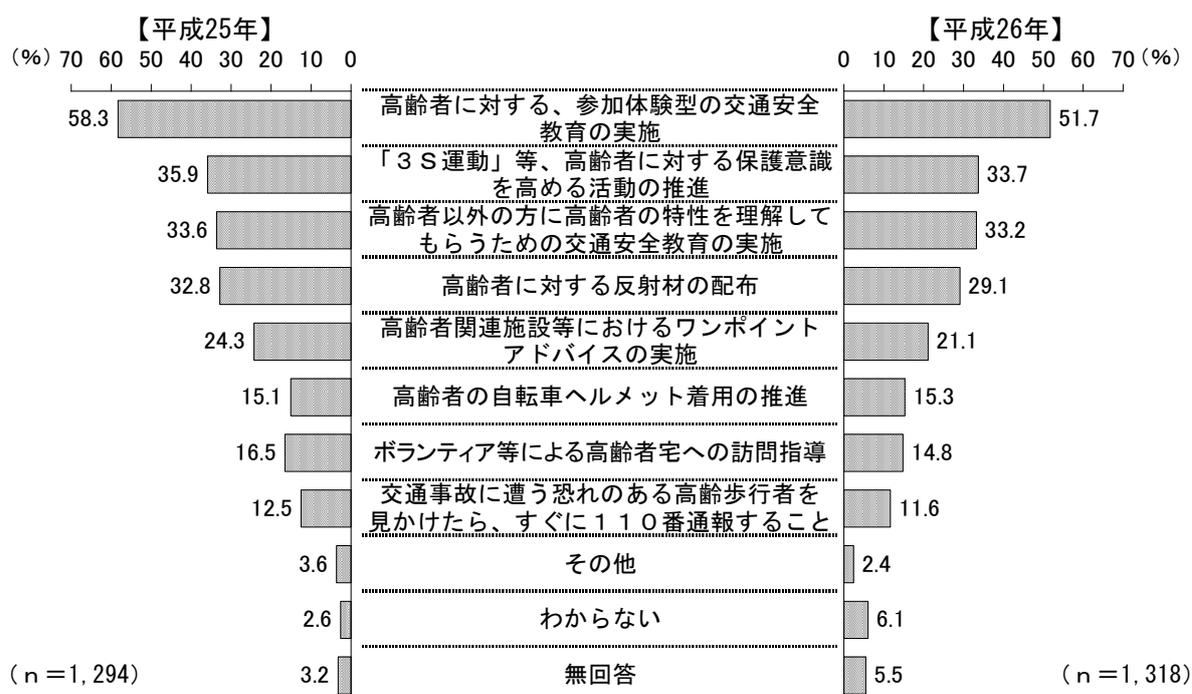
- ・全体で見ると、「パトロール活動」(78.7%)が8割近くで最も高く、次いで「地域で発生した事件の検挙」(30.7%)、「事件・事故の発生や被害防止上のアドバイスなどの広報」(27.5%)、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」(26.3%)、「交番、駐在所における在所活動」(26.2%)、「交番前や交差点等に立っての警戒活動」(24.1%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈男性〉(29.7%)が〈女性〉(23.3%)より6.4ポイント高く、「防犯講話、交通講話等の開催」では〈男性〉(13.1%)が〈女性〉(7.8%)より5.3ポイント高くなっている。「交通違反の取締り」では〈女性〉(19.2%)が〈男性〉(14.2%)より5.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「地域で発生した事件の検挙」では〈女性30歳代〉が48.0%と高くなっている。「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈男性70歳以上〉が41.3%と高くなっている。「交通違反の取締り」では〈女性70歳以上〉が34.0%と高くなっている。
- ・前回(平成25年)の調査結果と比較すると、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」が6.0ポイント、「地域で発生した事件の検挙」が4.5ポイント減少している。

## (6) 高齢者の交通事故防止のために必要な対策

問41 高齢死者数が全交通事故死者の5割以上を占めていますが、高齢者の事故を防止するため、あなたは何が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

[n=1,318]

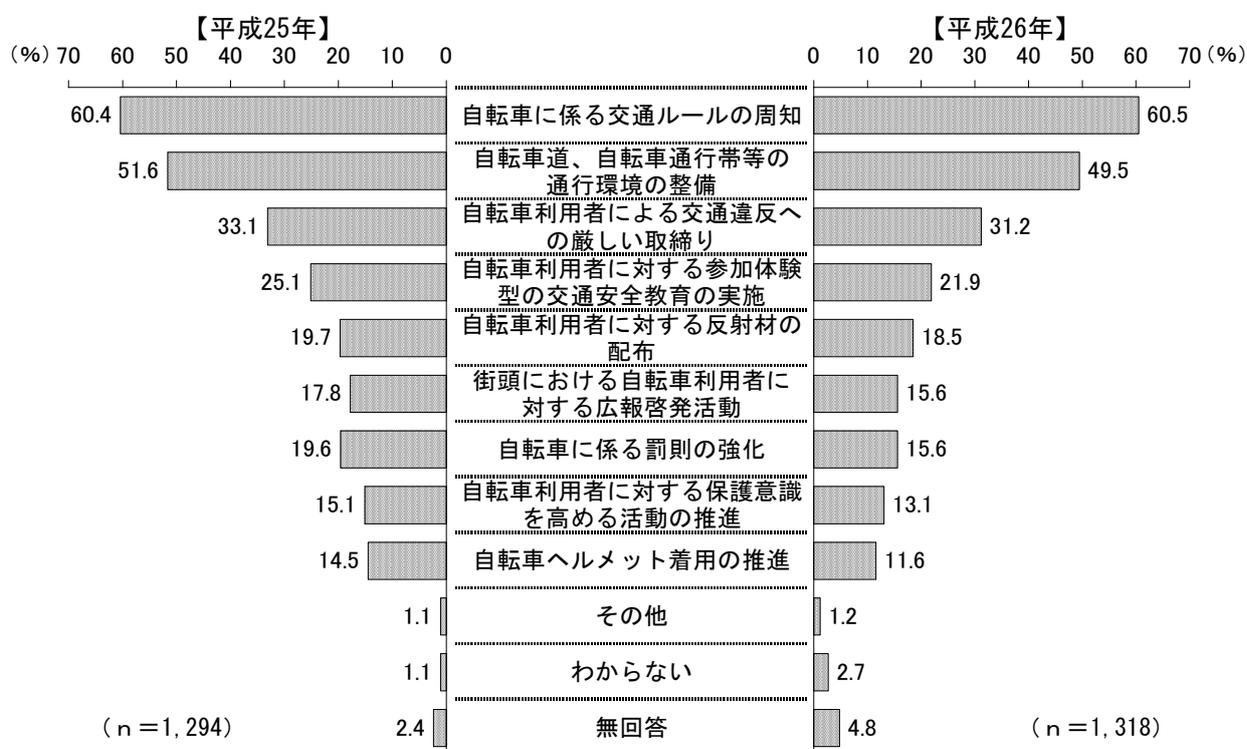
※3S（スリーエス）とは、SEE(見る)、SLOW(減速する)、STOP(止まる)の頭文字をとったものです。



- ・全体で見ると、「高齢者に対する、参加体験型の交通安全教育の実施」（51.7%）が5割を超えて最も高く、次いで「『3S運動』等、高齢者に対する保護意識を高める活動の推進」（33.7%）、「高齢者以外の方に高齢者の特性を理解してもらうための交通安全教育の実施」（33.2%）、「高齢者に対する反射材の配布」（29.1%）の順となっている。
- ・性別で見ると、「『3S運動』等、高齢者に対する保護意識を高める活動の推進」では〈男性〉（36.9%）が〈女性〉（33.5%）より3.4ポイント高く、「ボランティア等による高齢者宅への訪問指導」では〈女性〉（16.9%）が〈男性〉（13.7%）より3.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「高齢者以外の方に高齢者の特性を理解してもらうための交通安全教育の実施」では〈男性70歳以上〉が45.2%と高くなっている。
- ・前回（平成25年）の調査結果と比較すると、「高齢者に対する、参加体験型の交通安全教育の実施」が6.6ポイント減少し、「高齢者に対する反射材の配布」が3.7ポイント減少している。

## (7) 自転車の安全利用を促進するために必要な対策

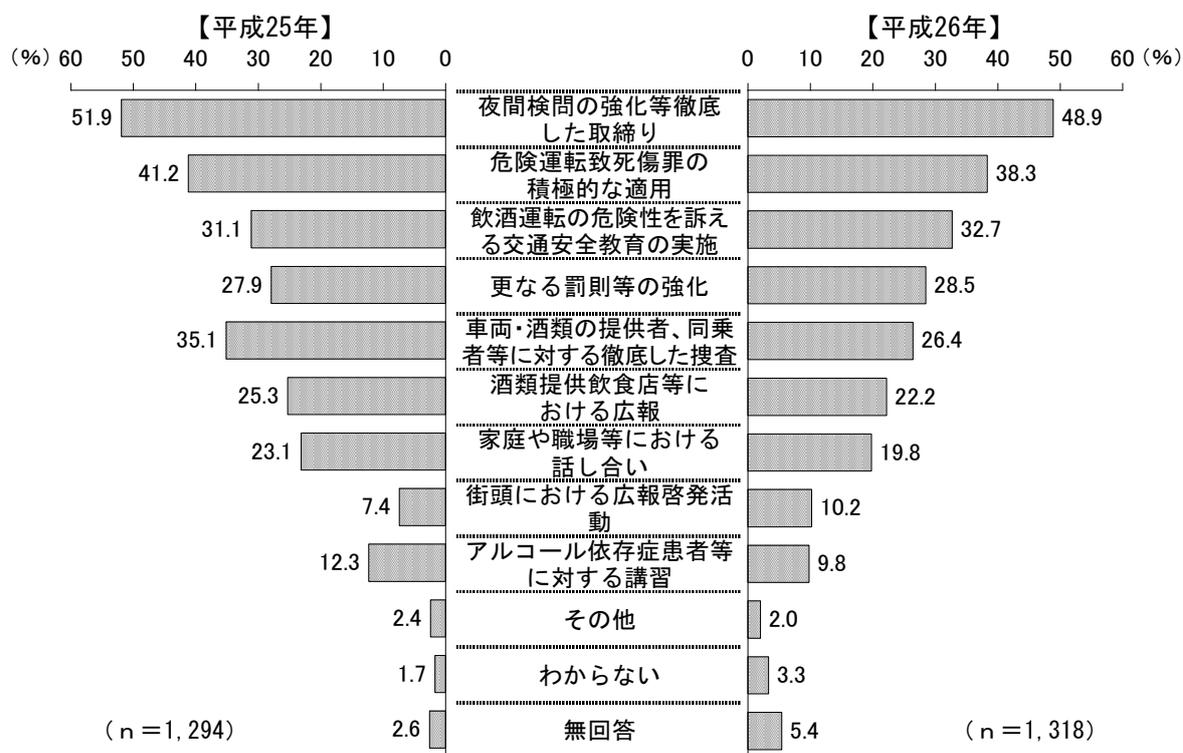
問42 自転車の安全利用を促進するために、必要なことは何だと思えますか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,318]



- ・全体で見ると、「自転車に係る交通ルールの周知」(60.5%)がほぼ6割で最も高く、次いで「自転車道、自転車通行帯等の通行環境の整備」(49.5%)、「自転車利用者による交通違反への厳しい取締り」(31.2%)、「自転車利用者に対する参加体験型の交通安全教育の実施」(21.9%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「自転車利用者に対する反射材の配布」では〈女性〉(23.8%)が〈男性〉(14.0%)より9.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「自転車道、自転車通行帯等の通行環境の整備」では〈女性40歳代〉が65.4%と高く、「自転車利用者に対する参加体験型の交通安全教育の実施」では〈女性60～64歳〉が33.8%と高くなっている。「自転車利用者に対する反射材の配布」では〈女性70歳以上〉が31.2%と高く、「街頭における自転車利用者に対する広報啓発活動」では〈男性60～64歳〉が29.5%と高くなっている。
- ・前回(平成25年)の調査結果と比較すると、「自転車に係る罰則の強化」が4.0ポイント減少し、「自転車利用者に対する参加体験型の交通安全教育の実施」が3.2ポイント減少している。

## (8) 飲酒運転根絶のために必要な対策

問43 飲酒運転の罰則や行政処分が強化されましたが、依然として悪質な飲酒運転は後を絶ちません。飲酒運転を根絶するため、あなたはどのような対策が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,318]



- ・全体でみると、「夜間検問の強化等徹底した取締り」（48.9%）が5割近くで最も高く、次いで「危険運転致死傷罪の積極的な適用」（38.3%）、「飲酒運転の危険性を訴える交通安全教育の実施」（32.7%）、「更なる罰則等の強化」（28.5%）の順となっている。
- ・性別でみると、「危険運転致死傷罪の積極的な適用」では〈男性〉（41.3%）が〈女性〉（38.6%）より2.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「夜間検問の強化等徹底した取締り」では〈女性30歳代〉が62.2%と高く、「危険運転致死傷罪の積極的な適用」でも〈女性30歳代〉が50.0%と高くなっている。「飲酒運転の危険性を訴える交通安全教育の実施」では〈男性70歳以上〉が45.2%と高くなっている。「更なる罰則等の強化」では〈女性30歳代〉が41.8%と高くなっている。「車両・酒類の提供者、同乗者等に対する徹底した捜査」では〈男性70歳以上〉が38.1%と高くなっている。
- ・前回（平成25年）の調査結果と比較すると、「車両・酒類の提供者、同乗者等に対する徹底した捜査」が8.7ポイント減少している。

平成26年度

栃 木 県 政 世 論 調 査

結 果 の 概 要

平成26年10月

栃木県県民生活部広報課

宇都宮市塙田 1 - 1 - 20  
電話 (028) 623-2158